

福岡市の地域カフェ事例集

～つどおう・はなそう・つながろう～



福岡市社会福祉協議会キャラクター
ここっと

目 次

はじめに	1
地域カフェとは	2
地域カフェ事例紹介（五十音順）	
東区	
●青葉校区 午後のお茶をご一緒に	3
●香椎下原校区（香椎オークタウン） ふれあいカフェ	5
●香椎浜校区 浜'sカフェ	7
●香椎東校区 いやしのひととき	9
●香椎東校区 香椎東ふれあいカフェ	11
●多々良校区 しろうおカフェ	13
●奈多校区 わ音奈多カフェ	15
●箱崎校区 きまぐれ喫茶	17
●箱崎校区 はこざきカフェ	19
●箱崎校区 みんなのサロン きんしゃい	21
●八田校区 きまぐれ喫茶	23
●八田校区 たたら相談室カフェ	25
●八田校区 日曜サロン八田のひだまり	27
●三苫校区（三苫4・5丁目） 地域カフェひだまり	29
●三苫校区 みとまカフェ	31
●美和台校区 みわだいくらす	33
●和白校区（塩浜3区） 塩浜3区はまカフェ	35
●和白校区（塩浜団地） 塩浜団地ほっと喫茶	37
●和白校区（和白新町） 和白新町ほっと喫茶	39
博多区	
●板付校区 夢カフェ	41
●那珂校区 けあかふえ那珂	43
●那珂南校区 そよカフェ	45
●那珂南校区 なかいいカフェ	47
●東月隈校区（下月隈団地1区～3区） しもだんカフェ	49
●吉塚校区 吉塚ニコニコ広場	51
中央区	
●小笹校区（平和3丁目2区） 地域カフェ スリー・ピース	53
●警固校区（今泉1・2丁目） カフェ・ビハーラ今泉	55
●笹丘校区 梅光園カフェ	57
●当仁校区（大濠公園・荒戸2丁目1～4区） 大荒憩い処 ぷらっとホーム	59
●舞鶴校区 浜の町ほっとカフェ	61
●舞鶴校区 舞鶴カフェ	63

南区

●日佐校区	おさカフェ	65
●長丘校区（長丘3丁目2区）	カフェいちら〜く	67
●西高宮校区	レイクサイドカフェ	69
●西長住校区	カフェ日和	71
●東若久校区	カフェ・ド・パピヨン	73
●三宅校区	喫茶 サン・タック	75
●弥永校区	ほほえみカフェ	77
●横手校区	よこの手カフェ	79
●老司校区	公民館カフェ	81

城南区

●金山校区	カフェたまり場	83
●城南校区	カフェ七隈の里	85
●堤校区	つつみカフェ	87
●堤校区（樋井川5丁目）	ふれあい茶房	89
●長尾校区	ふれあいカフェながお	91
●七隈校区（菊池ヶ丘自治会）	きくちカフェ	93
●七隈校区	七隈カフェ	95
●南片江校区	ふれあいカフェ	97

早良区

●有田校区	有田なのひカフェ	99
●飯原校区	ふれあいカフェ	101
●小田部校区	小田部公民館オアシス	103
●早良校区	ロビー喫茶	105
●田村校区	かふえ もりのいえ	107
●野芥校区	ぶらりカフェ	109
●室見校区	室見カフェ	111
●脇山校区	わきやま ^す 主基♡カフェ	113

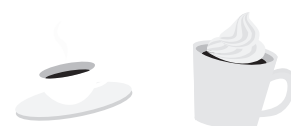
西区

●愛宕校区	かふえ・あたご	115
●愛宕校区（愛宕3丁目1区）	カフェ ひだまり	117
●壱岐校区	いきいきカフェ	119
●壱岐南校区（野方台団地）	ひだまりカフェ野方台	121
●壱岐南校区	ふら〜っとカフェ壱岐南	123
●城原校区	寄合カフェ げんき屋	125

地域カフェ立ち上げ時の主な検討事項……………127～134

※事例紹介ページの人口数及び高齢化率は、平成27年3月現在のものです。

※事例紹介ページの記載内容は変更になる場合もあります。





はじめに

近年、世帯(家族)の縮小といった社会の構造的変化が進むと同時に、地域の中での人と人とのつながりが弱まり、「社会的孤立」を共通の背景とした様々な不安や福祉課題を抱える人が増えています。そのような中、地域住民同士の交流や顔の見える関係づくりが改めて必要になっています。

地域での住民の交流の場には様々なものがあり、本会においても、高齢者・障がい者の介護予防・仲間づくり・閉じこもり防止等を目的とした「ふれあいサロン」や高齢者会食会、家族介護者の交流会など、人と人とのつながりを豊かにする校区単位・町内単位の様々な活動を支援しています。

一方で、自治協議会や校区社会福祉協議会、自治会・町内会をはじめとした地域での活動においては、担い手の不足や活動への負担感など課題も多く、「地域に交流の場が必要」という認識があっても、実際に活動を行うのは難しいと感じている地域活動者も少なくないのが現状です。

そのような中で、近年、「地域カフェ」という取り組みが全国的に広がっています。

「地域カフェ」には、多様な在り方があり、年代や性別を問わず住民の誰もが気軽に参加できる場であるため、これまで地域行事に参加したことのない住民にとっても立ち寄りやすいなど、新たな交流の場、地域とつながる“きっかけ”の場として注目されています。また、幅広い世代の住民が参加することから、地域活動の新たな担い手の発掘につながる場としても期待されています。

さらに、地域の住民だけで開催する形式にとどまらず、最近では、福祉施設・企業等も大切な社会資源・担い手と捉え、施設・企業等と地域が互いに協力した取り組みも生まれています。

この事例集では、福岡市内で地域住民や公民館、福祉施設等により取り組まれている「地域カフェ」の事例を紹介していますが、それぞれの活動内容だけでなく、運営に関する情報や立ち上げの経緯などについても掲載しています。

この事例集が、新たな「地域カフェ」の立ち上げや居場所づくりのヒントとなり、地域住民同士の交流や支え合いのさらなる充実・発展につながることを願っています。



地域カフェとは…

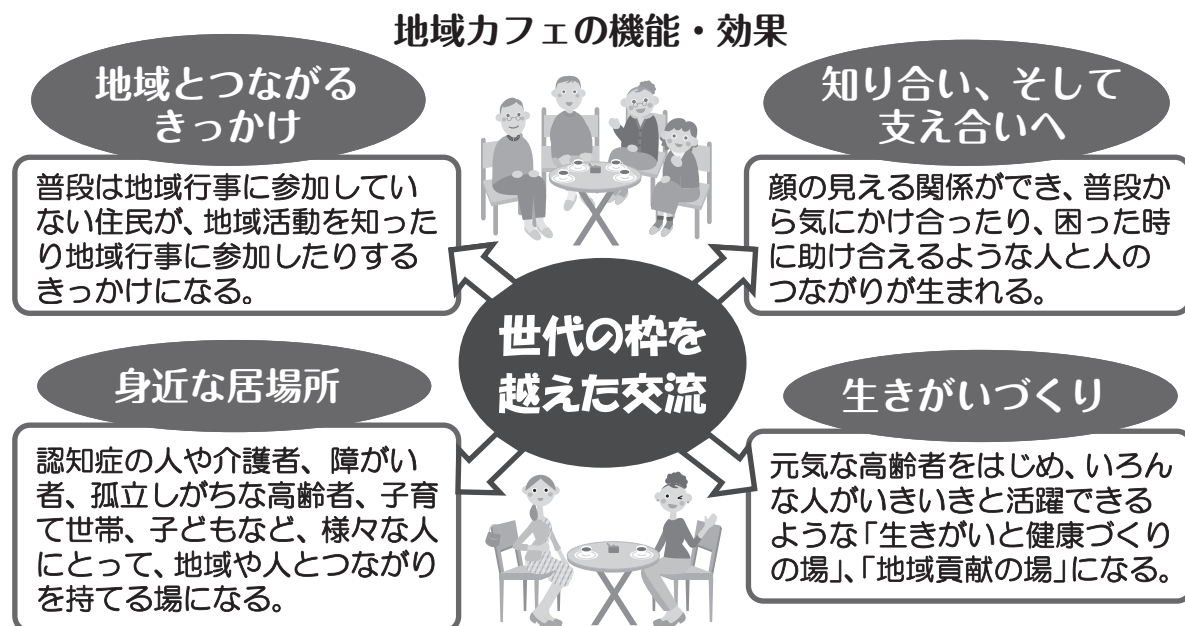
「地域カフェ」は、一般的な営利目的のカフェとは異なり、地域の中の「居場所」「たまり場」として、人と人が交流することを目的に実施されているものです。

交流を目的に行われている地域の取り組みには様々なものがありますが、「地域カフェ」には以下のような特徴があります。

★地域カフェの特徴

- お茶やコーヒーを飲みながら、参加者が自由に時間を過ごすことができる。
(決まったプログラムがない場合が多く、おしゃべりや交流がメイン)
- 好きな時に来て好きな時に帰れる自由な雰囲気、出入りが自由。
- 特に年齢や対象の制限はなく、幅広い世代の住民が誰でも気軽に参加できる。

また、地域カフェには以下のような機能・効果が期待されています。



その他にも、「若い世代の参加が地域活動の担い手の発掘につながる」、「地域の各種団体の垣根を越えた活動者同士の情報交換や仲間づくりの拠点になる」、「地域住民と福祉施設の職員・利用者との交流の機会になる」、「相談やニーズがあがってくる場になる」、「住民への情報発信・啓発の場になる」など、様々な機能・効果があります。

※地域での他の取り組みとの関係

地域で実施されている様々な取り組みには、地域カフェと同様の機能を持っているものや共通点があるものもありますが、各々が大切な取り組みです。なぜなら、地域の中の福祉課題が多様化・深刻化・複雑化し拡大する中、様々な居場所や支援のあり方が求められており、一つの取り組みだけで何もかもを解決することはできないからです。校区社協が中心となって進めてきた「ふれあいサロン」や「ふれあいネットワーク」をはじめ、各々の取り組みがその強みを活かし、お互いにつながりを持ちながら一体的に地域住民を支えるネットワーク（＝支え合いの輪）が求められます。



東区青葉校区

午後のお茶を一緒に

人口 12,183人
高齢化率24.0%

概 況

主 催 者 青葉公民館**会 場** 青葉公民館**開催日時** 毎月第2金曜
13:00~15:00**参 加 費** 無料**平均参加者数** 20名**ボランティア数** 参加者とボランティア
の区別はない。**立ち上げ時期** 平成24年5月

校区の特色

- ・校区のほとんどが住宅専用地域であり、戸建てや持ち家の割合が高い。
- ・緑豊かな山林が広がっており、公園やため池も多く、自然環境に恵まれた校区である。
- ・少しずつ高齢化が進んでおり、坂の多い地形のために不便を感じている住民もある。

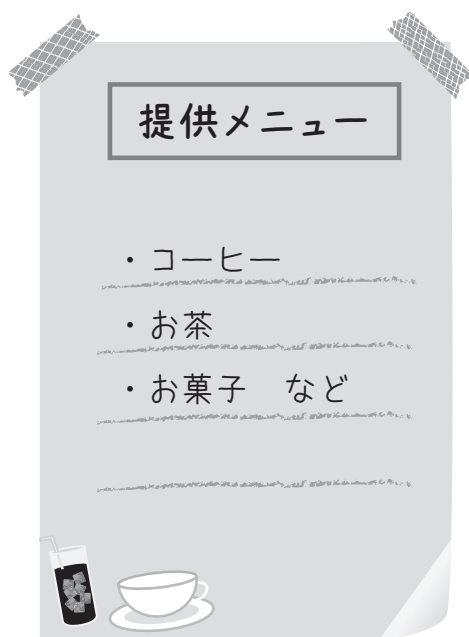
立ち上げまでの流れ

- ・地域住民から「高齢者の居場所（気軽に通える場）があったらいい」という声や、民生委員から「訪問した際に、高齢者を誘い出せる場があるといい」という声があったことがきっかけ。
- ・初めはお試しという形で始めた。



カフェの内容・特徴

- ・ コーヒー、緑茶は校区社協・校区の有志が寄附している。
- ・ お菓子は各自が持ち込む。
- ・ 毎回、ゲストを招き、イベントを開催している。ゲストには校区のサークルや他校区のサークルなどが協力している。（例：手話ダンス、ハンドベル、ギター、ダーツ、青葉校区の歴史について）
- ・ 校区内の福祉施設利用者も職員と一緒に参加されることもある。





東区香椎下原校区(香椎オークタウン町内会)

ふれあいカフェ

人口 校区13,535人
(町内977人)
高齢化率 校区19.4%
(町内36.7%)

概 況

主 催 者	アイビーカフェ (ボランティアグループ)		
会 場	香椎オークタウン集会所	平均参加者数	50人
開催日時	毎月第1土曜 10:00~15:00	ボランティア数	39人 (1回あたり平均12~13名活動)
参 加 費	100円	立ち上げ時期	平成27年4月

町内の特色

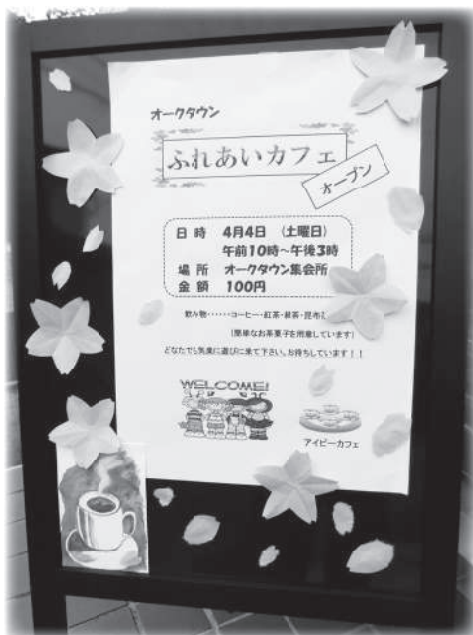
- 昭和54年から2~3年かけて戸建が売られた住宅地で、町内の高齢化率は高い。全世帯が戸建であり、空き家になってもすぐ買い手がつく。
- 町を一緒に作ってきた背景から、高齢者の男性どうしのつながりが強い。

立ち上げまでの流れ

- 町内会長が、町内の高齢化率が高く独居者も増えているので、サポートするボランティアが必要ではと考え、町内で声をかけ賛同者を募ったことがきっかけ。
- ボランティアは最初は緩やかな見守り活動から始まり、九州大学院生を招いて認知症についても学んだ。
- 住民同士が話し合える場も必要ということで、城南区「つつみカフェ」の見学やボランティア講座でボランティアについての学習を経て、カフェを立ち上げた。

カフェの内容・特徴

- 喫茶・おしゃべりが中心だが、今後は住民が講師となって知的な講座を開催することも考える。
- 男性・女性それぞれが活躍して、カフェと防犯・防災が連動する取り組みを検討中。



提供メニュー

- ・ コーヒー
- ・ 紅茶
- ・ 緑茶
- ・ 昆布茶
- ・ お菓子





概 況

主 催 者	香椎浜公民館		
会 場	香椎浜公民館	平均参加者数	30名
開催日時	毎月第1木曜 10:00~15:00	ボランティア数	6名 (1回あたり平均6名活動)
参 加 費	無料	立ち上げ時期	平成27年10月

校区の特色

- ・埋立地に校区ができて30年程度経つ。県営住宅・市営住宅・住宅供給公社分譲住宅・ケア付住宅など、校区のほとんどが集合住宅であり、その割合は区内で最も高い。
- ・現在、分譲マンションを中心とした団地の計画が進行しており、校区の世帯数は増える見込み。
- ・校区の大きさがコンパクトで、大型スーパーが校区内にある。天神・博多へのアクセスが良好であり、利便性が高い。

立ち上げまでの流れ

- ・公民館が、「ほとんどが集合住宅で地縁がなく、つながりが薄いのでみんなが集まる場ができるといい。特に高齢者、乳幼児の親子が集える場の設定したい。」との思いから立ち上げた。福岡市の平成27年度「みんなの公民館づくり事業」として採択された。
- ・H27年9月に公民館が新しく建て替わり、ロビーが広がったことも要因となった。
- ・立ち上げに際しては校区内の各種団体にも周知し、開設のお知らせや参加者の呼びかけは公民館だよりで広報した。
- ・ボランティアは平成27年度に立ち上がった校区高齢者生活支援ボランティアグループ「はまっこおたすけ隊」に依頼した。

カフェの内容・特徴

- ・「はまっこおたすけ隊」による乳幼児親子や高齢者の送迎（外出支援）を行っている。
- ・午前中は乳幼児向け親子向けに、保健師、保育士（かな保育園）の協力を得て育児相談コーナーを設けている。
- ・午後は高齢者の認知症予防・健康体操メニュー（ラダートレーニング）を取り入れている。
- ・折り紙・マス計算・塗り絵などの脳トレコーナー、血圧・体組成を調べる健康チェックコーナーを設けている。
- ・妊婦さんにも来てもらい、産後の子育ての場（サロン、育児サークル）につなげたい。





概 況

主 催 者	ボランティアグループ「げんき会」		
会 場	小規模多機能ホーム いやしの宮前	平均参加者数	6 名
開催日時	毎週火曜、水曜、木曜 (祭日及び第4木曜は休み) 14:00~16:30	ボランティア数	4 名 (1回あたり平均2~3名活動)
参 加 費	無料	立ち上げ時期	平成25年7月

校区の特色

- 昭和50年代から大規模住宅地の開発が進み人口が増加し、昭和53年に香椎校区より分離して誕生した校区。
- 住宅地の背後に三日月山に続く山林が広がり、緑豊かで閑静な住宅地となっている。
- 香椎東小学校の児童数も近年増加傾向にある。

立ち上げまでの流れ

- 施設開設時から地域の交流スペースとして地域に場所を開放されている。
- 「いやしの宮前」で活動するボランティアグループ「げんき会」が企画し、運営する形で立ち上がった。



カフェの内容・特徴

- 火曜、木曜日は映画鑑賞、水曜日はイベント、レクリエーション（ぜんざい、ケーキ作りや健康体操、認知症予防講座等）を行っている。
- 「げんき会」は校区内に住む男性で組織されており、メンバーが校区内で口コミで参加者を誘ったりして、「いやしの宮前」と地域住民との懸け橋になっている。
- ボランティアと地域の方、施設利用者とその家族の交流の場となっている。
- 飲み物、お菓子はセルフサービス



提供メニュー

- ・ コーヒー
- ・ 紅茶
- ・ 緑茶
- ・ カフェラテ
- ・ お菓子





東区香椎東校区

香椎東ふれあいカフェ

人口 13,811人
高齢化率21.7%

概 況

主 催 者	香椎東校区社会福祉協議会		
会 場	香椎東公民館	平均参加者数	60名
開催日時	毎月最終土曜 10:00~12:00/ 13:30~15:30	ボランティア数	10名 (1回あたり平均午前中5名午後5名活動)
参 加 費	無料	立ち上げ時期	平成27年10月

校区の特色

- 昭和50年代から大規模住宅地の開発が進み人口が増加し、昭和53年に香椎校区より分離して誕生した校区。
- 住宅地の背後に三日月山に続く山林が広がり、緑豊かで閑静な住宅地となっている。
- 香椎東小学校の児童数も近年増加傾向にある。

立ち上げまでの流れ

- 高齢者地域支援会議（区役所が推進する、高齢者を地域で支えるための住民による話し合い）の中で校区の課題・解決策について話し合いをした結果、新たな集いの場として、校区社協が主催となり、自治協議会・公民館が共催という形でカフェを開催することになった。
- 区社協職員から校区社協、自治連合会、民生委員それぞれの定例会の場で地域カフェの目的・効果などを説明し、カフェの内容や役割分担等については主に校区社協の定例会で話し合いを行った。
- 自治協ニュース、公民館だより、チラシ等で広報を行った。

カフェの内容・特徴

- 喫茶、おしゃべりが中心。
- コーヒー豆は校区内の喫茶店より提供してもらっている。
- 校区社協事業や他団体の行事の案内チラシを配布している。
- 校区内の福祉施設の利用者も参加している。
- 公民館行事の参加者や公民館サークルの方の参加も多い。
- あやすぎ文庫（本の無料貸し出し）を実施。
- 募金箱を設置し運営費に充てている。



提供メニュー

- ・ コーヒー
- ・ 紅茶
- ・ 緑茶
- ・ ジュース
- ・ お菓子





概 況			
主 催 者	多々良公民館		
会 場	多々良公民館	平均参加者数	34人
開催日時	月3回 (日曜2回、火曜か金曜に1回) 日によって時間は異なる。	ボランティア数	7名 (1回あたり平均3名活動)
参 加 費	無料 ミニワーク(手芸)の参加者 からは材料費100円徴収。	立ち上げ時期	平成27年3月

校区の特色

- ・ 区的最東部に位置し、多々良川に沿って東西に広がっている。
- ・ 東側には農村集落と田園地帯、西側には物流の拠点である流通センターがあり、幹線道路沿いには大型店舗も多く立地している。



立ち上げまでの流れ

- ・ 公民館増設の際に新設されたホールとテラスを、子どもから高齢者まで気軽に利用できる空間として活用したいという公民館職員の思いから、職員間で話し合いを重ね、立ち上げの準備を進めた。
- ・ 福岡市の「みんなの公民館づくり事業」を活用した。



カフェの内容・特徴

- ・ イベント（ミニ講座、ミニコンサート、体操等）を実施。企画内容によってボランティアの人数が変わる。
- ・ 授乳室を提供している。
- ・ 市、地域、サークルなどの情報提供をしている。



提供メニュー

- ・ コーヒー
- ・ 紅茶
- ・ 緑茶
- ・ ジュース
- ・ ご飯、味噌汁、丼、
麺類などを「カフェ
めしの日」という企画
で出すこともあった。
(50円)





概 況

主 催 者	一般社団法人 いきがいつくり福岡		
会 場	デイサービスセンター わ音奈多	平均参加者数	5 名
開催日時	毎月第2・第4土曜 18:00~20:00	ボランティア数	3名(施設職員) (1回あたり平均3名活動)
参 加 費	100円	立ち上げ時期	平成27年11月

校区の特色

- ・ 校区内をJR香椎線が運行し、「雁の巣駅」と「奈多駅」が立地する。
- ・ JR香椎線と県道志賀島和白沿線に奈多団地などの住宅地がある。
- ・ 校区全体の高齢化率が年々高まっている。
- ・ 校区内に高齢者関係の施設が多い。

立ち上げまでの流れ

- ・ デイサービスが開設5年を経過して地域との連携に目を向ける余裕ができたため、以前から検討していた地域と連携した取り組みとして、カフェを開催したいと考えた。
- ・ 認知症カフェの講演会に参加して、認知症カフェについて学習した。
- ・ カフェ開設にあたり、公民館及び近隣の事業所を訪問し、カフェの紹介を行った。

カフェの内容・特徴

- 茶話会のほか、懐かしい歌の音楽会（ギターの生演奏に合わせて、みんなで楽しく懐かしい歌を唄う）や健康体操等も行っている。
- 認知症の方や介護している家族が、住み慣れた家や地域で安心して過ごせるように、地域と施設が力を合わせて様々な角度から援助するための情報交換や連携をつくるきっかけづくりを目的としている。
- 介護者同士が悩みを共有できる場にしたい。



提供メニュー

- ・ コーヒー
- ・ 緑茶
- ・ お菓子





東区箱崎校区

きまぐれ喫茶

人口 13,467人
高齢化率19.1%

概 況

主 催 者	自主ボランティアグループ		
会 場	いきいき箱崎	平均参加者数	40名
開催日時	第1・2・4水曜 第3木曜 13:00~15:30	ボランティア数	3名 (1回あたり平均3名活動)
参 加 費	無料	立ち上げ時期	平成23年7月

校区の特色

- 1,000年以上の歴史を持つ筥崎宮と九州大学とともに発展したまち。
明治44年の九州大学の立地により学生の街としても発展し、商店街が形成され、東区役所や県立図書館などの公共施設も立地している。
- 古くからの住民も多いが、近年はマンションの建設が相次ぎ、若い世代とともに高齢者の転入も多い。

立ち上げまでの流れ

- 施設利用者の家族の、「家族が施設に入所していた時に、利用者同士やその家族同士の交流スペースが施設にあったらいいなあ…」との思いから立ち上げるようになった。
- 入所者の家族、元職場の同僚、知人に声をかけ、ボランティアを集め、施設側の協力を得ながら立ち上げた。
- 「いきいき八田」で開催している『きまぐれ喫茶』に続く第2号店として「いきいき箱崎」の開設と同時にオープンした。

カフェの内容・特徴

- 喫茶、おしゃべりが中心。
- 施設利用者が多く参加している。
- 施設のイベントとコラボで開催することもある。
- 地域の方の参加も歓迎する。



提供メニュー

- ・ コーヒー
- ・ アイスコーヒー
- ・ 紅茶（50円）
- ・ ビスケット、
一口チョコ（無料）





東区箱崎校区

はこざきカフェ

人口 13,467人

高齢化率19.1%

概 況			
主 催 者	はこざきカフェボランティアの会		
会 場	箱崎公民館	平均参加者数	50名
開催日時	原則毎月29日 11:00~15:00	ボランティア数	13名
参 加 費	無料	立ち上げ時期	平成27年9月

校区の特色

- 1,000年以上の歴史を持つ筥崎宮と九州大学とともに発展したまち。
明治44年の九州大学の立地により学生の街としても発展し、商店街が形成され、東区役所や県立図書館などの公共施設も立地している。
- 古くからの住民も多いが、近年はマンションの建設が相次ぎ、若い世代とともに高齢者の転入も多い。

立ち上げまでの流れ

- H26年度に「高齢者支援に関してあったらいいと思う活動に関するアンケート」を実施し、地域カフェの希望が最も多かったため、立ち上げを検討することとなった。
- 校区社協役員・公民館職員等で城南区「つつみカフェ」「カフェたまり場」を見学した。
- 校区社協が中心となり自治協と共催でお試しカフェを平日と日曜の2回開催。その結果を踏まえて、はこざきカフェボランティアの会による定期開催に向けて検討を進めた。

カフェの内容・特徴

- 校区内の施設利用者も施設職員とともに参加している。
- 原則プログラムやイベントはなし。
- 「キッズスペース」を設け、乳幼児親子が気軽に参加できるよう配慮している。
- 受付に募金箱を設置している





東区箱崎校区

みんなのサロン きんしゃい

人口 13,467人
高齢化率19.1%

概 況

主 催 者	NPO法人 きんしゃい		
会 場	みんなのサロン きんしゃい (デイサービスきんしゃいに併設)	平均参加者数	10名
開催日時	毎週月曜～土曜 (祝日もオープン)	ボランティア数	3名 (1回あたり平均1名活動)
参 加 費	無料	立ち上げ時期	平成24年11月

校区の特色

- 1,000年以上の歴史を持つ筥崎宮と九州大学とともに発展したまち。
明治44年の九州大学の立地により学生の街としても発展し、商店街が形成され、東区役所や県立図書館などの公共施設も立地している。
- 古くからの住民も多いが、近年はマンションの建設が相次ぎ、若い世代とともに高齢者の転入も多い。

立ち上げまでの流れ

- 平成23年11月、元気な高齢者が自分達自身の力で、箱崎のまちづくり活動への参加の場をつくりだしていこうと、NPO法人「きんしゃい」の設立を企画した。
- 地域の人たちが買い物や散歩などの途中に、気軽に立ち寄れる場所、グループで談笑したり休憩やいろんな相談もできる場所を目指して、1年後、介護事業所のオープン時にサロンを併設した。

カフェの内容・特徴

- 商店街利用者の休憩スペース、地域の方の交流・憩いのスペースとして開設。
- 箱崎商店連合会の包丁研ぎやセール抽選会場などとしても場所を提供。
- トイレを誰でも利用できるように開放。
- 子育て支援活動として、授乳やおむつ交換の場を提供。
- ボランティアがいない日はフリースペースとして利用可。
- ケアマネジャーによる相談コーナーを開設（毎週水曜日午後）。
- 弁護士、社会保険労務士による無料相談も実施（不定期・年4回程度）。
- 血圧測定もできる。



提供メニュー

- ・ぜんざい
（200円程度）
- ・コーヒー
- ・ほうじ茶など





東区八田校区

きまぐれ喫茶

人口 7,352人
高齢化率23.7%

概 況

主 催 者	自主ボランティアグループ		
会 場	特別養護老人ホーム いきいき八田	平均参加者数	15名
開催日時	毎週月曜・水曜・金曜 12:00~14:00	ボランティア数	10名 (1回あたり平均2名活動)
参 加 費	無料	立ち上げ時期	平成16年

校区の特色

- JR千早駅の南東部に位置し、穏やかな丘陵地に戸建て住宅と集合住宅が混在している自然環境に恵まれた住宅地。近年、大型マンションや戸建て住宅の建設もすすみ、人口・世帯数とも平成22年以降は増加傾向、商業施設や医療機関も充実している。

立ち上げまでの流れ

- 家族がいきいき八田に入所していて、お世話になっていた人が、施設のスペースで人が交流できることをやりたいと施設に相談したところ、やってほしいとの返事があり、カフェを立ち上げることになった。
- 元入所者の家族、趣味の仲間、元職場の同僚など、知人に声をかけ、賛同した人にボランティアとして関わってもらい、施設の協力を得ながら立ち上げた。

カフェの内容・特徴

- 月に1回、水曜日にボランティアグループをお招きし、ミニコンサートを行っている。ミニコンサートの時は、参加者が多い。
- 地域の方の参加も歓迎する。



提供メニュー

- ・コーヒー
- ・アイスコーヒー
- ・紅茶（50円）
- ・ビスケット、
ーロチョコ（無料）





東区八田校区

たたら相談室カフェ

人口 7,352人
高齢化率23.7%

概 況

主 催 者	たたらリハビリテーション病院		
会 場	たたらリハビリテーション病院	平均参加者数	10名
開催日時	不定期	ボランティア数	病院スタッフ4名 (1回あたり平均4名活動)
参 加 費	無料	立ち上げ時期	平成25年11月

校区の特色

- JR千早駅の南東部に位置し、穏やかな丘陵地に戸建て住宅と集合住宅が混在している自然環境に恵まれた住宅地。近年、大型マンションや戸建て住宅の建設もすすみ、人口・世帯数とも平成22年以降は増加傾向、商業施設や医療機関も充実している。



立ち上げまでの流れ

- 病院が認知症ケアを始めて、認知症の人と家族の会に参加させてもらい、家族同士の交流の必要性を感じた。ソーシャルワーカーが立ち上げを提案し、企画運営している。



カフェの内容・特徴

- 認知症への理解、認知症ケアへの理解を深めてもらうこと、家族介護者の交流・リフレッシュを目的としている。
- 開催が決まれば、公民館だよりや病院内でお知らせしている。（近隣住民含めどなたでも参加できる。）
- 認知症ケアについて、医師、看護師、栄養士、薬剤師等のレクチャーがある。
- 認知症家族の会による、介護体験談やヨガ教室を行う。
- 今後は認知症について相談できる場を作りたい。





東区八田校区

日曜サロン 八田のひだまり

 人口 7,352人
 高齢化率23.7%

概 況

主 催 者	八田公民館 ・ 八田校区まちづくり協議会（自治協議会）		
会 場	八田公民館	平均参加者数	15名
開催日時	毎月第3日曜 10:00～15:00	ボランティア数	公民館職員5名 (1回あたり平均3名活動)
参 加 費	無料	立ち上げ時期	平成26年4月

校区の特色

- JR千早駅の南東部に位置し、穏やかな丘陵地に戸建て住宅と集合住宅が混在している自然環境に恵まれた住宅地。近年、大型マンションや戸建て住宅の建設もすすみ、人口・世帯数とも平成22年以降は増加傾向、商業施設や医療機関も充実している。

立ち上げまでの流れ

- 公民館が「地域の縁側」として、地域住民が集い語り合える場を提供したいと思い立ち上げた。
- 公民館より、各自治会と各種団体に説明会を行い運営委員を数名選出し、公民館職員と共に立ち上げ、運営している。



カフェの内容・特徴

- 地域の皆さんが自由に立ち寄り、ゆっくり過ごせる（地域の茶の間、縁側）。
- お昼ごはんなどの飲食は持ち込み自由。
- 講演会やコンサート、うたごえ喫茶（スクリーンに映った歌詞を見ながらみんなで一緒に歌う）などのイベントもある。
- 28年度は、奇数月に健康カフェ（血圧測定や相談コーナー、軽い運動など）を開催予定。



提供メニュー

・ コーヒー

・ 紅茶

・ 緑茶

・ お菓子





東区三苫校区(三苫4・5丁目)

地域カフェ ひだまり

人口 校区9,295人
(4丁目:1,175人 5丁目:2,293人)
高齢化率 校区15.8%
(4丁目:11.4% 5丁目 8.7%)

概 況

主 催 者	老人クラブ婦人部		
会 場	三苫4・5丁目集会所	平均参加者数	13名
開催日時	毎月第3木曜 11:00~15:00	ボランティア数	7名 (1回あたり平均7名活動)
参 加 費	無料	立ち上げ時期	平成27年5月

町内の特色

- ・戸建てが中心の校区のなかでマンションが多い地区。
- ・子育て世代の転入が多く高齢化率は低いが、老人クラブの活動が活発である。
- ・新宮町と隣接する郊外地区であり、また三苫海岸やイチゴ畑が広がるなど、のどかで穏やかな雰囲気の地域である。

立ち上げまでの流れ

- ・H26年度に校区で行った高齢者支援に関するアンケート結果をもとに、公民館でのカフェ立ち上げが検討されていたが、より身近な場にも居場所があるとよいとの思いから、町内カフェを立ち上げることになった。
- ・地域カフェに関心のあった民生委員（老人クラブ婦人部兼務）が城南区「つつみカフェ」を見学した。
- ・民生委員2名が中心となって老人クラブ婦人メンバーに声を掛け、町内会、校区社協の協力を得て立ち上げた。

カフェの内容・特徴

- 老人クラブ、町内会、校区社協が協力して開催している。
- 原則、プログラムやイベントはなし。
- 受付に募金箱を設置している。
- 老人クラブ婦人部メンバーの手芸作品のバザーもある。
- おしゃべりしながら昼食を一緒に食べることがボランティアの楽しみにもなっており、弁当を持参する参加者もいる。



提供メニュー

・ コーヒー

・ 紅茶

・ 緑茶

・ ジュース





概 況

主 催 者	三苦校区社会福祉協議会・カフェサポーター		
会 場	三苦公民館	平均参加者数	60名
開催日時	毎月第1月曜 10:00~15:00	ボランティア数	13名 (1回あたり平均8名活動)
参 加 費	無料	立ち上げ時期	平成27年6月

校区の特色

- ・戸建てが中心の地区であるが一部アパート・マンションが多い地区もある。
- ・もともと先祖代々住んでいる住民が多い校区であったが、最近は子育て世代の転入が多くなっている。
- ・新宮町と隣接する郊外地区であり、また三苦海岸やイチゴ畑が広がるなど、のどかで穏やかな雰囲気地域である。

立ち上げまでの流れ

- ・H26年度に校区内の30代~80代の幅広い世代の地域活動者に、「高齢者支援に関してあったらいいと思う活動」に関するアンケートを実施した結果、地域カフェの希望が最も多かったため、立ち上げに向け検討を開始した。
- ・校区社協役員と男女共メンバーの有志で、城南区「つつみカフェ」を見学した。
- ・男女共メンバーの有志が中心となり、地域役員OBなどにも声をかけカフェサポーターを結成し、自治協会長・校区社協会長・人尊協会長・防災防犯会長などもサポーターに加わり準備会を開催し立ち上げた。

カフェの内容・特徴

- 校区社協、自治協、人尊協、公民館等が協力して開催している。
- 校区内の福祉施設利用者も施設職員とともに参加している。
- 原則、プログラムやイベントはなし。
- 受付に募金箱を設置している。



提供メニュー

- ・ コーヒー
- ・ 紅茶
- ・ 緑茶
- ・ ジュース





東区美和台校区

みわだいくらす

人口 15,752人
高齢化率25.1%

概 況

主 催 者	美和台公民館		
会 場	美和台公民館	平均参加者数	40名
開催日時	毎月第2木曜 10:30~12:00	ボランティア数	4名 (1回あたり平均4名活動)
参 加 費	50円	立ち上げ時期	H27年9月

校区の特色

- 昭和50年代に計画的に開発された住宅地であり、道路や公園等も整備され、閑静な住宅地が広がっている。
- 世帯数並びに小学校児童の増加率が高い。
- 福岡市で最も高齢者人口が多いと言われており、戸建住宅で高齢者のみ、又は独居の世帯が増え、校区内に坂道が多いため引きこもりがちになる高齢者が増えることが心配される。
- ふれあいサロンをはじめ、地域での活動も盛んである。
- 校区が丘陵地帯にあることと住民の高齢化にともない、買い物等の外出に不便を感じる住民も多く、校区内にコミュニティバスを運行させようとする動きのもと試験運用中。

立ち上げまでの流れ

- 公民館を拠点にした地域活動やサークル活動従事者等、地域には豊富な人材があふれており、その豊富な経験を地域の高齢者の介護予防に役立てるための活動の場づくりをしたいとの思いから、カフェの開催をすすめた。
- 校区社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会、高齢者ふれあいサロン連絡会と連携し、広報・協力を依頼した。
- 東区地域保健福祉課・いきいきセンターや校区内の高齢者施設にも協力を依頼した。

カフェの内容・特徴

- 認知症の理解や予防も目的としている。
 - 地域の高齢者自身が講師となって活動しており、
 - 脳トレ体操やゲーム（サークル指導者や地域の高齢者施設の協力）
 - 体験学習（サークル会員、同好会等地域住民が指導）
 - 回想法カフェ（公民館職員と地域ボランティアによるもの）
- 等を実施している。



提供メニュー

- ・ コーヒー
- ・ 紅茶
- ・ 緑茶
- ・ お菓子





東区和白校区(塩浜3区)

塩浜3区はまカフェ

人口 校区11,367人
(町内1,543人)
高齢化率 校区17.1%
(町内18.3%)

概 況

主 催 者 塩浜3区町内会

会 場 塩浜2・3区集会所

開催日時 偶数月第3土曜(28年度~)
13:00~15:00

参 加 費 100円

平均参加者数 38名

ボランティア数 10名
(1回あたり平均10名活動)

立ち上げ時期 平成27年6月

町内の特色

- ・ 校区の中で西の端に位置し、マンション、一戸建て、その他集合住宅で構成されている。
- ・ 高齢世帯が増加している。



立ち上げまでの流れ

- ・ 高齢者の居場所づくりが必要だと考えていた民生委員が中心となって話し合いを行い、町内会の総会で了解を得て、身近な集会所を利用して地域カフェを実施することになった。
- ・ 町内会でふれあいネットワーク活動、はまカフェの活動費を捻出してもらい、2か月に1回の開催に至る。
- ・ ふれあいネットワーク協力員と民生委員経験者の協力で、高齢者コミュニティの充実を図ることができた。

カフェの内容・特徴

- 毎回、様々なイベント（情報提供含む）を実施している。
- ふれあいネットワークの見守り対象者の安否確認の場になっている。
- 「地域デビュー応援事業」の助成金を活用。



提供メニュー

- ・ コーヒー
- ・ 紅茶
- ・ 緑茶
- ・ ウーロン茶
- ・ ジュース
- ・ お菓子
- ・ ぜんざい
- ・ ケーキ





東区和白校区(塩浜団地)

塩浜団地ほっと喫茶

人口 校区11,367人
(町内436人)
高齢化率 校区17.1%
(町内18.8%)

概 況

主 催 者	塩浜団地町内会		
会 場	塩浜団地集会所	平均参加者数	15名
開催日時	毎月1日 13:00~15:00	ボランティア数	5名 (1回あたり平均4名活動)
参 加 費	無料	立ち上げ時期	平成27年6月

町内の特色

- 市営住宅（8棟190戸）のみで構成された町内
- 65歳以上の世帯は72戸81名（平成28年2月時点）



立ち上げまでの流れ

- 一人暮らしの方が孤独死したことをきっかけに、住民から高齢者の集いを実施してほしいとの希望があった。
- 手伝いを申し出た協力者と話し合い、無理のないやり方で毎月楽しんで参加できるような「ほっと喫茶」を実施している。
- 今後は、閉じこもりがちの方にも参加してもらえるようにしていきたい。



カフェの内容・特徴

- 和気あいあいとした雰囲気。
- 参加者が得意なことを自由に楽しめるような場。



提供メニュー

- コーヒー
- 紅茶
- 緑茶
- お菓子





東区和白校区(和白新町)

和白新町ほっと喫茶

人口 校区11,367人
(町内1,813人)
高齢化率 校区17.1%
(町内18.1%)

概 況

主 催 者	和白新町町内会		
会 場	和白新町集会所	平均参加者数	20名
開催日時	2か月に1回(不定期) 13:00~15:00	ボランティア数	5名 (1回あたり平均4名活動)
参 加 費	無料	立ち上げ時期	平成27年3月

町内の特色

- 比較的戸建の住宅が多い町内



立ち上げまでの流れ

- 以前から身近な場所に高齢者が集まる場を作りたいと考えていた民生委員が、町内の皆さんが気軽に参加しやすい地域カフェを実施したいと考えた。
- 町内会長に相談し、町内会の総会で了承を得て、地域カフェを開催することになった。



カフェの内容・特徴

- 和気あいあいと自由におしゃべりを楽しむ雰囲気。
- 特にプログラムを設けず、歓談が主な内容。
- ふれあいネットワーク活動の見守り対象者の安否確認の場になっている。
- 「地域デビュー応援事業」の助成金を活用。



提供メニュー

- ・ コーヒー
- ・ 紅茶
- ・ 緑茶
- ・ お菓子





概 況

主 催 者	板付校区自治協議会		
会 場	板付公民館	平均参加者数	約60名
開催日時	原則月1回 10:00～13:00	ボランティア数	15名 (1回あたり平均15名活動)
参 加 費	無料	立ち上げ時期	平成27年10月

校区の特色

- ・ 校区の東側は大野城市と隣接しており、校区内を、筑紫通り・旧国道3号線が南北に、福岡都市高速道路が東西に通っている。
- ・ 近年新たに集合住宅の建設が進む町もあり、校区人口は増加傾向にある。

立ち上げまでの流れ

- ・ 校区の課題や取り組みについて話し合う高齢者地域支援会議（座談会）と校区の福祉のまちづくりプランづくりに取り組む中で、住民から4つの夢プラン（目標）が挙がり、その1つとして『みんなのつどいの場をつくろう』というプランが出された。
- ・ 関係団体のメンバーが集まる世話人会にて、つどいの場のあり方の検討を進めた結果、校区単位のつどいの場として公民館での地域カフェを開催することとなった（町単位のつどいの場もできるところから開始）。
- ・ 立ち上げに向け2回の準備会議を実施し、カフェ開催に至った。

カフェの内容・特徴

- 決まったプログラムは設けず、ゆっくりおしゃべりや交流ができるカフェ。関係団体、公民館、ボランティア等の協力で開催している。
- 夢プランの1つ『健康づくりに取り組もう』で取り組んでいる「板付歩こう会」と同日に開催することで、歩こう会の参加者もカフェに参加し、住民同士の交流が広がりやすくなっている。
- 夢プランの1つ『私にもできるケア・ケア』（認知症の本人や家族が安心できる地域づくり）の取り組みとして、カフェの中で認知症啓発資料の展示を実施している。
- ボランティア手づくりの小物等が各テーブルに飾られている。



提供メニュー

- ・ コーヒー
- ・ 紅茶
- ・ 緑茶
- ・ アップルティー
（子ども向け）
- ・ お菓子





博多区那珂校区

けあかふえ 那珂

 人口 20,083人
 高齢化率14.3%

概 況

主 催 者	ふぁみりー那珂（小規模多機能型居宅介護）		
会 場	ふぁみりー那珂	平均参加者数	20名
開催日時	隔月第4木曜 13:30～15:00	ボランティア数	施設スタッフ （1回あたり平均10名活動）
参 加 費	100円	立ち上げ時期	平成26年11月

校区の特色

- ・博多区内でも人口・世帯数ともに最も多い校区で、毎年増加傾向にある。
20代後半から40代前半の世代と子どもの割合が多い。



立ち上げまでの流れ

- ・校区内の福祉施設「ふぁみりー那珂」が「地域住民との交流を図りたい」、「住民に認知症への理解を深めてもらいたい」という思いを持っていたことがきっかけ。
- ・ふぁみりー那珂と校区自治協議会とで協議した結果、ふぁみりー那珂の主催でカフェを開催していくこととなった。



カフェの内容・特徴

- 地域住民と施設利用者との交流や認知症の啓発も目的としている。
- ボランティア団体、一般企業、いきいきセンター、区社協等の協力で、毎回企画を設けている。（福祉相談コーナー、ツボ押し、ケーキの販売等）
- ふぁみりー那珂の運営推進会議に自治会長が出席しており、施設と町内で良い関係ができています。



提供メニュー

- ・ お抹茶
- ・ コーヒー
- ・ お菓子





博多区那珂南校区

そよカフェ

 人口 13,309人
 高齢化率21.1%

概 況

主 催 者	NPO法人そよかぜ		
会 場	そよかぜ人の駅	平均参加者数	10名
開催日時	毎月第3土曜 13:30～15:30	ボランティア数	10名（施設・法人関係者） （1回あたり平均6～7名活動）
参 加 費	200円	立ち上げ時期	H26年11月

校区の特色

- 校区内にJR南福岡駅と西鉄雑餉隈駅があるため利便性が高く、一人暮らし世帯が比較的多い校区である。銀天町商店街があり、商店等も多い。

立ち上げまでの流れ

- NPO法人「そよかぜ」には、地域での助け合いを進めることや、認知症の方とその家族の支援、地域で認知症の理解を深めることへの強い思いがあり、校区内の「そよかぜ人の駅」で、休みの日を活用して、地域に向けて何かできないかと考えた。
- 「そよかぜ」が福岡市からモデル事業を受託したことをきっかけに、カフェの実施に取り組んだ。

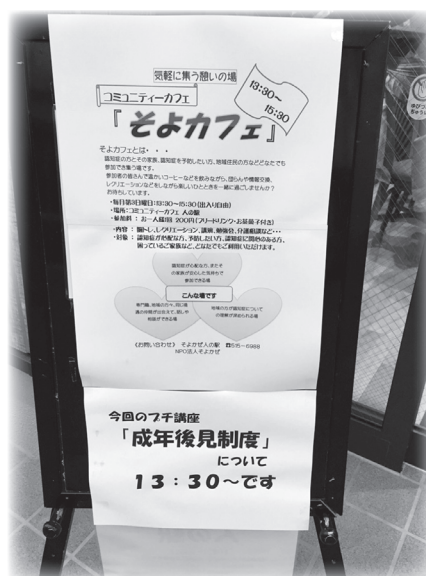
カフェの内容・特徴

- 茶話会の他、認知症講座、脳トレゲーム、体操、レクリエーション、歌、「ユマニチュード（認知症ケアの方法）」のDVD上映などの企画をしている。
- 認知症判定器を設置している。
- 隣接する校区からの参加もある。
- 同法人が運営する施設の利用者も参加している。
- 同法人がいきいきセンターを運営しており、連携がある。



提供メニュー

- ・ コーヒー
- ・ 紅茶
- ・ 緑茶
- ・ お菓子





概 況

主 催 者	那珂南校区自治協議会		
会 場	那珂南公民館	平均参加者数	35名
開催日時	月1回 月曜か水曜 13:30~16:30	ボランティア数	30名 (1回あたり平均5名活動)
参加費	無料	立ち上げ時期	平成27年11月

校区の特色

- ・ 校区内にJR南福岡駅と西鉄雑餉隈駅があるため利便性が高く、一人暮らし世帯が比較的多い校区である。銀天町商店街があり、商店等も多い。

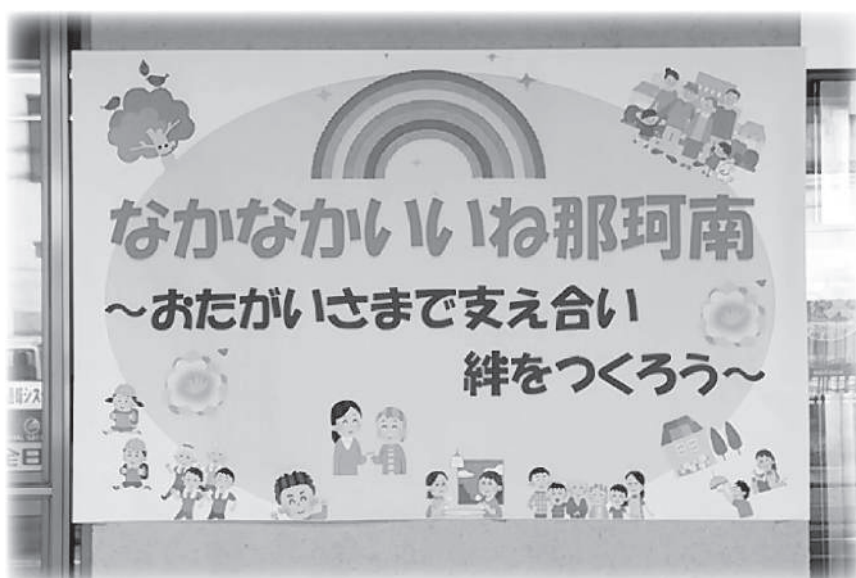


立ち上げまでの流れ

- ・ 平成26年から平成27年にかけて、高齢者を地域で支えるため認知症講座や取り組みの話し合いを重ねた結果、みんなで集い楽しく過ごせる場づくりに取り組むことになった。
- ・ 有志で城南区「つつみカフェ」を見学した後、校区自治協議会会長、ボランティア活動委員会を中心に公民館・区役所・区社協とも打ち合わせを行い、準備を進めた。

カフェの内容・特徴

- 特に企画やイベントは設けず、参加者には自由におしゃべりや交流を楽しんでもらう。
- 通りに面した大きな窓のある部屋で行われており、外からカフェの様子を見ることができる。
- 別の用事で公民館に来た人にも声をかけ、交流を図っている。
- 次回のカフェ日を毎月公民館だよりで広報している。





博多区東月隈校区(下月隈団地1区～3区)

しもだんカフェ

人口 校区8,331人
(町内2,009人)
高齢化率 校区31.0%
(町内40.9%)

概 況

主 催 者	しもだん輪 ^{わっず} Ｚ (ボランティアグループ)		
会 場	下月隈団地集会所	平均参加者数	50名
開催日時	年に8回(不定期) 10:00～15:00	ボランティア数	10名 (1回あたり平均6名活動)
参 加 費	無料	立ち上げ時期	平成26年 3月

町内の特色

- ・東月隈校区は博多区で最も高齢化率が高い校区であるが、校区内でも下月隈団地1区～3区では高齢化率が40.9%と非常に高い。
- ・主に一戸建ての住宅で構成されており、団地ができて40年以上経っている。開発当初からの住民が多く、人と人とのつながりが強い町内である。

立ち上げまでの流れ

- ・ストレッチヨガサークルのメンバーで、「超高齢社会に備えるため、地域で助け合いの雰囲気を作ることが大切」との話になり、そのきっかけとして人が集う場が必要だとの認識が高まったことがきっかけ。サークルの友人同士で口コミでメンバーを募り、ボランティアグループを作り、カフェを立ち上げた。

カフェの内容・特徴

- カフェの開催と合わせて様々なイベントを工夫しており、趣味活動の発表の場にもなっている。（例）ファッションショー、文化祭（手作りフェア）、フリーマーケット等
- しもだん輪＼＼が自治会長に呼びかけ、日常生活支援ボランティアグループ「しもだんたすけあい隊」の結成につながった。



提供メニュー

- ・お弁当
(300円)
- ・フールドリンク
(お菓子付)(200円)
- ・サンドイッチ
(200円)





博多区吉塚校区

吉塚ニコニコ広場

人口 10,006人
高齢化率16.8%

概 況

主 催 者	吉塚校区社会福祉協議会		
会 場	吉塚会館	平均参加者数	30名
開催日時	毎月第4火曜 13:00～15:00	ボランティア数	5名 (1回あたり平均5名活動)
参 加 費	無料	立ち上げ時期	平成26年10月

校区の特色

- JR吉塚駅の南から福岡空港まで細長く広がる校区。北部は主に住宅街だが、南部は空港や高速道路に近接し倉庫などの流通関連施設が多く立地しており、企業とその社宅のみで構成される自治会もある。
- 校区内の吉塚商店街には、昔ながらの風情が残っている。

立ち上げまでの流れ

- 校区社協事業の高齢者配食が諸事情で中止となったことに伴い、新規事業を検討する中で、区社協から他校区での地域カフェの事例を紹介した。
- 校区では既存のふれあいサロンや校区行事などの参加者が固定しがちという課題意識をもっていたことも重なり、これまで参加がなかった人にも参加してもらえるよう、対象やプログラムを限定せず誰でも自由に過ごすことができる場として、地域カフェの企画・検討を進めた。

カフェの内容・特徴

- 校区内の情報交換、井戸端会議の場として、校区社協を構成する各種団体の役員が参加している。
- 子育てサロンなどにも呼びかけ、子育て世帯、障がい者、高齢者など幅広い参加がある。
- 校区外の人でも近隣であれば受け入れている。



提供メニュー

・ コーヒー

・ 紅茶

・ 緑茶

・ ジュース

・ お菓子





中央区小笹校区(平和3丁目2区)

地域カフェ スリー・ピース

人口 校区14,394人
(町内1,426人)
高齢化率 校区19.5%
(町内20.9%)

概 況

主 催 者	平和3丁目2区町内会		
会 場	市営住宅集会所	平均参加者数	15名
開催日時	毎月第2土曜 13:00~17:00	ボランティア数	5名 (1回あたり平均5名活動)
参 加 費	無料	立ち上げ時期	平成27年 7 月

町内の特色

- 市営住宅と戸建住宅からなる町内会で、丘陵地を開発してできた、坂の多い住宅地である。
- 長く居住している人が多く、高齢化が顕著になっている。

立ち上げまでの流れ

- 町内会活動が活発な町内で、町内会長・民生委員等で今後の取り組みを検討する時、区社協から地域カフェの紹介があったことがきっかけになった。
- 開催に向け検討を重ね、主催者の負担が少なく、参加者の自由度が高い運営方法を考えた結果、現在の形になった。



カフェの内容・特徴

- 町内会が中心となって主体的に運営している。（町内会からお菓子や軽食を提供することもある。）
- 入り口に募金箱を設置しており、参加者が飲み物代として100円程度を入れるのが通例となっている。
- 主催者の負担が大きくなりなく長く継続できるよう意識している。





中央区警固校区

カフェ・ビハーラ今泉

人口 17,235人
高齢化率15.1%

概 況

主 催 者	今泉1丁目・2丁目ブロック・ビハーラ今泉（ケアハウス）		
会 場	ビハーラ今泉	平均参加者数	15名
開催日時	月1回 (不定期)	ボランティア数	10名 (1回あたり平均10名活動)
参 加 費	無料	立ち上げ時期	平成27年4月

校区の特色

- ・ビハーラ今泉のある今泉1丁目・2丁目の居住形態はほぼマンション。公民館までは少し遠く町内の集会所はない。しかし、ビハーラ今泉は、法泉寺と同じ敷地内にあり、大きな木の下ベンチや子供用の遊具などがあるため自然と人が集まっている。

立ち上げまでの流れ

- ・ビハーラ今泉の「地域貢献をしたい」「気軽に相談できる場として施設を活用してほしい」という思いと、校区の認知症サポーター養成講座受講生の「ボランティアとして活動できる場がほしい」という思いをつなぐ形として、区社協がカフェを提案した。
- ・ビハーラ今泉、認知症サポーター養成講座受講生、民生委員、自治会長、校区担当保健師、区社協で話し合いを行い、施設を見学しながら、カフェをイメージするグループワークを行った。
- ・日程を組回覧した他、口コミで広報を行った。

カフェの内容・特徴

- ・ビハーラ今泉による四季折々の手作りおやつを提供がある。
- ・ビハーラ今泉の入居者と地域住民の交流がある。

提供メニュー

- ・緑茶
- ・コーヒー（150円）
- ・おやつ（300円）
- ・障がい福祉サービス事業所「つくし学園」によるパン販売（実費）





中央区笹丘校区

梅光園カフェ

人口 12,079人
高齢化率22.7%

概 況

主 催 者	笹丘校区社会福祉協議会		
会 場	特別養護老人ホーム梅光園	平均参加者数	30人
開催日時	毎週火曜 10:00～15:00	ボランティア数	5人 (1回あたり平均5名活動)
参 加 費	無料	立ち上げ時期	平成27年 6月

校区の特色

- 西に樋井川が流れ、東は丘陵地となっていて、油山観光道路が南北に、筑肥新道が東西に校区を貫いている。
- 梅光園団地をはじめとする、住宅地区の性格が濃い地域である。梅光園団地は立地の良さなどもあって高齢者の転入が多く、高齢化率が25%と特に高くなっている。



立ち上げまでの流れ

- 校区社協の定例会や高齢者地域支援会議（区役所が推進する、高齢者を地域で支えるための住民による話し合い）の中で、高齢者の自由な居場所づくりについて検討を進めていたところ、同時期に「梅光園」からの場所提供と地域交流の申し出が重なって、急速に開催につながった。



カフェの内容・特徴

- 飲み物、お菓子は家庭からの持ち寄りもある。
- 立ち上げ時は、校区社協・自治連からボランティアが毎回出ていたが、回を重ね、頻繁に参加している方からボランティア（受付、お茶の準備片付けなど）を募り、徐々に自主的な運営に移行している。
- 「梅光園」から体操やミニ講座を行ったり、公民館サークルの出し物などを行ったりもしている。



提供メニュー

・ コーヒー

・ 紅茶

・ 緑茶

・ 昼食

施設内の喫茶店で調理したもの。当日に注文受付。300円





中央区当仁校区(大濠公園・荒戸2丁目1～4区)

おお あらいこ どころ

大荒憩い処 ぱらっとホーム

人口 校区14,638人
(町内3,989人)
高齢化率 校区17.7%
(町内15.7%)

概 況

主 催 者	大濠公園・荒戸2丁目ふれあいネットワーク		
会 場	チサンマンション 西公園集会室	平均参加者数	25名
開催日時	毎月第4金曜 10:00～15:00	ボランティア数	15名 (1回あたり平均5～10名活動)
参 加 費	無料	立ち上げ時期	平成27年4月

町内の特色

- ・大濠公園・荒戸2丁目自治会は、北は西公園、南は大濠公園があり環境に恵まれ、天神にも近く利便性の良い住宅地である。
- ・マンションの建設が進み、人口は増加傾向にある。

立ち上げまでの流れ

- ・荒戸2丁目で孤独死が起きたことをきっかけに、荒戸2丁目3区自治会で全世帯を対象にアンケートを実施したところ、「住民同士の交流が必要」との意見が多かったことから、大濠公園・荒戸2丁目ブロック自治会主催による住民交流会を3回シリーズで実施した。
- ・住民交流会をきっかけに「ブロック内に高齢者など誰もが集える居場所づくりが必要」との声が高まり、地域カフェを開設することとなった。
- ・町内会長、民生委員、有志などが中心となり、区社協職員を交えてカフェの内容や役割分担等について話し合った。
- ・広報チラシを作成し、町内ごとに組回覧を行い、住民への周知を行った。

カフェの内容・特徴

- ・参加者からカフェでやりたいことのアイディアを募集している。





中央区舞鶴校区舞鶴地区

浜の町ほっとカフェ

人口 7,884人
高齢化率15.5%

概 況

主 催 者	浜の町ほっとカフェ実行委員会		
会 場	浜の町公園集会場	平均参加者数	25名
開催日時	毎月第1・3火曜 10:00～16:00	ボランティア数	5名 (1回あたり平均5名活動)
参 加 費	100円	立ち上げ時期	平成27年6月

地区の特色

- 福岡市の中心部天神に隣接した校区。
- 昭和通りと那の津通りに挟まれた一帯に、あいれふや法務局など公共施設や官庁が集中している。
- 生産年齢人口が多いのが特徴的。

立ち上げまでの流れ

- 「公民館までの距離が遠い浜の町公園側に、地域住民が気軽に集まれる交流の場がほしい」との声が挙がったことがきっかけ。
- 自治協議会運営委員会にて、浜の町公園集会場を交流の場として活用することについてアンケートを実施したところ、賛成多数であったため、立ち上げに向けて進めることになり、自治協副会長、民児協会長、有志、区社協による打ち合わせを重ね、開催に至った。



カフェの内容・特徴

- ジャズボーカルクラブ会員によるイベントを随時開催し、多彩な曲目のジャズを披露している。
- 参加者と一緒に懐メロを歌うなどを実施している。
- 季節の行事を一人一品持ち寄りで行っている。



提供メニュー

・ コーヒー

・ 緑茶





中央区舞鶴校区舞鶴地区

舞鶴カフェ

人口 7,884人
高齢化率15.5%

概 況

主 催 者	舞鶴自治協議会、舞鶴社会福祉協議会、舞鶴公民館		
会 場	舞鶴公民館	平均参加者数	初回は60名
開催日時	年3回程度	ボランティア数	3名 (1回あたり平均3名活動)
参 加 費	無料	立ち上げ時期	平成27年12月

地区の特色

- 福岡市の中心部天神に隣接した校区。
- 昭和通りと那の津通りに挟まれた一帯に、「あいれふ」や法務局など公共施設や官庁が集中している。
- 生産年齢人口が多いのが特徴的。

立ち上げまでの流れ

- 平成27年8月、公民館と地域役員で協議し、住民が気軽に立ち寄れる場所づくりの一環として、地域カフェの取り組みを行うこととなる。
- 10月、地域役員を中心としたメンバーで、城南区堤校区の小規模多機能施設「ゆい」の施設長より、「つつみカフェ」について話を聴く。
- その後、地域役員で3回にわたり企画内容について協議。12月に第1回を実施。

カフェの内容・特徴

- 第1回は、プロの演奏家を招いてクラシックコンサートを行ったが、2回目以降は、地域団体の発表やインターネットを利用した脳トレテストなどを計画している。
- 参加者に公民館のロビーに設置しているミニ図書館を利用してもらう。
- 盛夏時のクールシェア（エアコンの効いた部屋に集まって過ごす、省エネ対策）につながると考えている。





南区日佐校区

おさかつエ

人口 6,815人
高齢化率18.7%

概 況

主 催 者	日佐校区社会福祉協議会・南区社会福祉協議会		
会 場	悠愛デイサービスセンター	平均参加者数	10名
開催日時	毎月第2水曜 13:30～15:30	ボランティア数	6名（施設職員含む） （1回あたり平均6名活動）
参 加 費	無料	立ち上げ時期	平成27年 3月

校区の特色

- 古くからの戸建が多いが、集合住宅や新興住宅地もあり、若い世代も多い。
- 公民館は校区の中央部に位置している。集会所も2ヶ所あるが、利用は多くない。

立ち上げまでの流れ

- 校区内の福祉施設（悠愛デイサービスセンター）より区社協へ「施設内の部屋を地域住民に開放したい」という相談があり、校区社協会長へ情報提供を行った。その際、地域カフェの取り組みについても合わせて説明を行ったことから、カフェを試行的に開催することとなった。
- 平成27年1月、3月の2回にわたり、試行的に開催した後、27年度より本格的にスタートした。



カフェの内容・特徴

- 悠愛デイサービスセンター内で行うため、施設職員が運営に関わっており、いろいろなプログラムの提供や介護相談などに応じることが出来る。
- 現在、南区社協と日佐校区社協が共催で開催しており、開設時間には施設職員もスタッフとして協力している。
- 施設と地域住民のつながりを深めていく機会にもしていきたい。



提供メニュー

- ・ コーヒー
- ・ 緑茶
- ・ お菓子





南区長丘校区(長丘3丁目2区)

カフェいちら〜く

人口 校区10,706人
(町内757人)
高齢化率 校区17.8%
(町内23.1%)

概 況

主 催 者	長丘3丁目2区ふれあいネットワーク班		
会 場	老人いこいの家	平均参加者数	15名
開催日時	毎月第4水曜 13:00~16:00	ボランティア数	14名 (1回あたり平均7~8名活動)
参 加 費	100円	立ち上げ時期	平成27年2月

町内の特色

- 以前は戸建てが多かったが、近年はマンション世帯が多くなっている。
- 町内に有料老人ホームが3施設ある。(ウィズ長丘Ⅰ~Ⅱ、さわやかめぐり館)

立ち上げまでの流れ

- ふれあいネットワークの班会議の中で、住民同士の交流や一人暮らしの方の閉じこもり防止のため、集いの場を設けてはどうかとの意見が出たため、他校区での活動などの情報収集をした結果、カフェを開催することとなった。
- ふれあいネットワークの班会議で2~3回程度話し合い、立ち上げに至った。
- チラシを組回覧し、広報している。



カフェの内容・特徴

- ・ イベント等はなく、おしゃべりや喫茶が中心。
- ・ ウイズ長丘の利用者と職員が2～3名参加しており、地域住民と施設との相互交流が生まれている。



提供メニュー

・ コーヒー

・ 緑茶

・ お菓子





南区西高宮校区

レイクサイドカフェ

人口 17,369人
高齢化率16.9%

概 況

主 催 者	西高宮公民館		
会 場	西高宮公民館	平均参加者数	45名
開催日時	毎月第4土曜 10:00～15:00	ボランティア数	10名 (1回あたり平均6名活動)
参 加 費	100円	立ち上げ時期	平成27年6月

校区の特色

- 都心部に近く交通利便性が高い地域であり、マンションが多い。
- 都心部に近い地域だが、緑も多い。
- 人口は南区で最も多く、ここ10年増加傾向にある。

立ち上げまでの流れ

- 公民館が、日頃公民館に来ない方にも広く公民館を知ってもらうとともに、子どもから高齢者まで幅広い世代の方が交流できる場を持ちたいと考え、誰でも気軽に立ち寄れる場としてカフェの企画をした。
- 福岡市の「みんなの公民館づくり」事業の助成が決まり、備品等を購入した。



カフェの内容・特徴

- ボランティアとして、男女共同参画協議会、更生保護女性会、公民館サークルが協力している。



提供メニュー

- ・ コーヒー
- ・ お菓子





南区西長住校区

カフェ日和

人口 3,703人
高齢化率29.1%

概 況

主 催 者	西長住公民館・西長住校区社会福祉協議会		
会 場	西長住公民館	平均参加者数	15名
開催日時	毎月原則 第4水曜 13:00~16:00	ボランティア数	3名 (1回あたり平均3名活動)
参 加 費	無料	立ち上げ時期	H27年 4 月

校区の特色

- 南区内で一番面積が小さく、人口・世帯数も最も少ない校区。
- 城南区と隣接しており、城南区の一部（樋井川3丁目）も小学校区に含む。
- 戦後、土地区画整理事業による住宅開発が行われた地域で、戸建住宅地と長住団地を中心とする、中層・中高層住宅団地地域が形成されている。
- 高齢化率が南区で4番目に高い。

立ち上げまでの流れ

- 公民館主事を中心に、世代を問わず公民館に人が集まってほしいという願いのもと、立ち上げの検討を進めた。

カフェの内容・特徴

- セルフサービスを原則としている。
- 地域の福祉施設からも参加があり、相互交流が生まれている。



提供メニュー

- ・ コーヒー
- ・ 紅茶
- ・ 緑茶
- ・ ハーブティー





南区東若久校区

カフェ・ド・パピヨン

人口 7,561 人
高齢化率 26.8%

概 況

主 催 者 東若久公民館

会 場 東若久公民館

開催日時 毎月第 3 か第 4 金曜
13:00～16:00

参 加 費 無料

平均参加者数 20 名

ボランティア数 3 名
(1 回あたり平均 3 名活動)

立ち上げ時期 平成 27 年 2 月

校区の特色

- 戸建住宅の割合が高い住宅街で、商店等は少ない。
- 20 年以上前から総人口は減少、高齢化率は増加し続けてきた。(単身世帯の割合は低めだが、その中に占める高齢者世帯の割合はやや高く、高齢者夫婦世帯の割合も高い)
- 平成 20 年前後に新しいマンションや戸建てが建ったことで高齢化率は一時横ばいとなっていたが、団塊の世代も多く居住しているため、今後も高齢化率は増加していく見込み。

立ち上げまでの流れ

- 公民館の主催で、公民館に多くの人に来てもらうことを目的にカフェを開設された。



カフェの内容・特徴

- 原則セルフサービスで、参加者が自由に飲み物を入れ、過ごす。
- 吹き抜けのロビーで行われ、憩いの空間となっている。



提供メニュー

- ・ コーヒー
- ・ 紅茶
- ・ 緑茶





南区三宅校区

喫茶 サン・タック

人口 16,262人
高齢化率 18.6%

概 況

主 催 者	三宅校区社会福祉協議会		
会 場	三宅公民館	平均参加者数	60名
開催日時	毎月第3水曜 10:30～12:30	ボランティア数	9名 (1回あたり平均9名活動)
参 加 費	無料	立ち上げ時期	平成27年9月

校区の特色

- 西鉄大橋駅の周辺はマンションやアパートなどの集合住宅が多く、和田・三宅地域は戸建て住宅が中心である。
- 総人口は南区内で2番目に多く、高齢者数は南区で最も多い。

立ち上げまでの流れ

- 公民館が以前からカフェの立ち上げを検討しており、校区社協も住民同士の交流の機会を必要と感じていたことから、公民館と校区社協で話し合い、校区社協事業として協力して立ち上げるようになった。
- 役員が他校区のカフェを見学したり、立ち上げに向けた役員会議を行って準備を進め、お試しカフェ開催を経て、本格開始となった。



カフェの内容・特徴

- 高齢者が多く参加する校区衛生連合会主催のウォーキング教室と同じ日にカフェを開催し、ウォーキング教室参加者がカフェにも多く参加しており、交流につながっている。
- いきいきセンター、区社協による福祉相談も行っている。





南区弥永校区

ほほえみカフェ

人口 6,370人
高齢化率31.5%

概 況

主 催 者 弥永校区社会福祉協議会

会 場 地域内の店舗（スーパー等）、
弥永公民館、集会所、
福祉施設など

平均参加者数 50 名
(スーパーでの開催時は 100 名超)

開催日時 月 1 ～ 2 回
(不定期)

ボランティア数 15 名

参 加 費 無料

立ち上げ時期 平成 27 年 7 月

校区の特色

- 南区で最も高齢化率が高い校区であり、45%を超える高齢化率の町もある。
- 公営団地と戸建てが半々の地域である。
- 校区活動者が実際に認知症の高齢者に対応した事例もあり、認知症に対する支援への関心が高く、徘徊高齢者の支援体制づくりにも取り組んでいる。

立ち上げまでの流れ

- 「認知症やその家族も含め誰もが安心して暮らせる校区」を目標に掲げ、自治協会長、校区社協会長・役員、民生委員会長、公民館長等で話し合いを重ねた中で、地域カフェへの関心が高まった。
- また、校区内の福祉施設（グループホームおさ）職員が、「地域の高齢者が立ち寄っておしゃべりしたりゆったり過ごしたりできるカフェをしたい」との思いを以前より持っていた。
- 校区と施設のそれぞれの思いを踏まえ、社協職員より、協力してカフェを開催することを提案したところ、双方の思いが一致し、一緒に開催することとなった。
- 実働メンバーでカフェ準備会を発足し、開催に向けた具体的な話し合いを3回実施し、立ち上げに至った。準備会での協議の中で、校区社協の主催で開催することも決定した。

カフェの内容・特徴

- 校区社協、公民館サークル、福祉施設職員、ケアマネジャー、開催場所の地域活動者等が協力して開催している。
- 校区内の様々な場所で開催することで、なるべく多くの住民が地域とつながる「きっかけ」になるよう工夫している。
- 参加者へ地域活動紹介のPR冊子を配布したり、ボランティアが参加者とおしゃべりすることで、地域活動に関心を持ってもらい、カフェをきっかけに地域参加へつなげる工夫をしている。
- 特にスーパー前の広場での開催時は、買い物ついでに何気なく立ち寄る人も多く、初めて地域のつどいの場に参加する人も多い。(この時のみ健康チェックや福祉相談コーナーなどのプログラムも実施。)
- 認知症高齢者や介護を受けている高齢者も、家族や民生委員、ケアマネジャーの付き添いで参加している。
- テーブルに募金箱を設置し参加者から寄付を募っている。



提供メニュー

- ・ コーヒー
- ・ 緑茶
- ・ ジュース
- ・ 水
- ・ お菓子





南区横手校区

よこの手カフェ

人口 7,869人
高齢化率16.6%

概 況

主 催 者	横手校区社会福祉協議会（よこの手カフェボランティア）		
会 場	横手公民館	平均参加者数	48名
開催日時	毎月29日 13:30～15:30	ボランティア数	20名 (1回あたり平均18名活動)
参 加 費	無料	立ち上げ時期	平成27年 4 月

校区の特色

- 古くからの戸建が多いが、集合住宅や新興住宅地もあり、若い世代も多い。
- 公民館は校区の端に位置し、一部の町内からは公民館まで通いづらいという声が聞かれる。

立ち上げまでの流れ

- 横手公民館に家族介護者から相談があったことをきっかけに、「認知症の高齢者やその家族を支えられる横手校区」を目指して、平成27年3月に地域住民出演の介護劇と座談会を開催した。座談会の中で、「住民が気軽に集える場所が欲しい」という意見等が出されたことから、カフェ立ち上げに向けて動き出した。
- 3月から4月にかけて、公民館、横手校区社協、区社協職員での話合いや城南区「つつみカフェ」の見学を経て、5月に本格的にカフェをスタートした。
- カフェの運営のために、「よこの手カフェボランティアグループ」を結成した。

カフェの内容・特徴

- 茶話会中心で、地域の方や参加者の中で特技がある方がいたら、披露してもらっている。
- 認知症の有無や年齢を問わず気軽に参加できる場とし、認知症の理解を深めることや家族介護者の憩い、校区内の福祉施設と住民の交流も目的としている。
- 専門職に介護について相談できる「よろづ相談所」がある。



提供メニュー

- ・ コーヒー
- ・ 緑茶
- ・ お菓子





南区老司校区

公民館カフェ

人口 8,530 人
高齢化率 27.1%

概 況

主 催 者 老司公民館

会 場 老司公民館

開催日時 毎月第 4 月曜
13:30~15:00

参 加 費 無料

平均参加者数 20~30 名

ボランティア数 明確なボランティアなし。
公民館、参加者で協力。

立ち上げ時期 平成 27 年 4 月

校区の特色

- 校区の東側に那珂川が流れ、南側は那珂川町と隣接しており、校区内に 5 つのため池がある。
- 高齢化率は南区で 6 番目と高い。

立ち上げまでの流れ

- 公民館職員が、他校区の公民館でカフェが開催されているのを聞き、見学した後、地域住民の交流や親睦を目的に立ち上げた。
- 検討会等は設けず、とりあえず立ち上げたため、毎回、試行錯誤しながら進めている。



カフェの内容・特徴

- 校区内にある盲養護老人ホーム「松月園」の入所者が、マッサージボランティアとして参加している。(不定期)
- お菓子は参加者から提供されている。
- 後々は介護相談窓口の設置等福祉的な要素を入れることも検討している。



提供メニュー

・ コーヒー

・ 紅茶

・ 緑茶





城南区金山校区

カフェたまり場

人口 7,079人
高齢化率29.9%

概 況

主 催 者	金山校区社会福祉協議会		
会 場	金山公民館	平均参加者数	100名
開催日時	年6回 不定期 10:00~15:00	ボランティア数	15名 (1回あたり平均15名活動)
参 加 費	無料	立ち上げ時期	平成26年7月

校区の特色

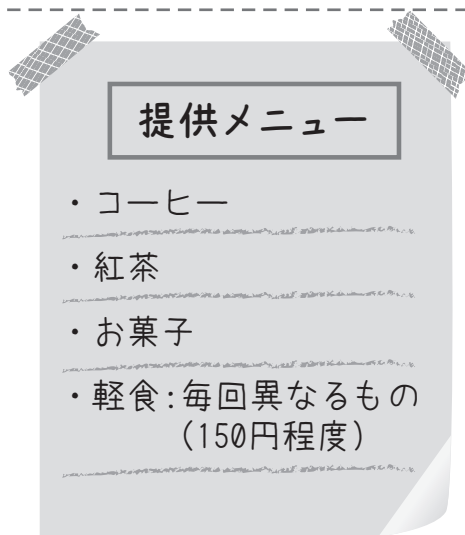
- 校区の西側に金山団地、南側に戸建てが多い松山地区、東側に戸建てとアパートが混在する友丘地区がある。どの地域も高齢化率が25%を超えている。
- また、校区が丘陵状になっていることから、生活しにくいと感じている住民も少なからずいる。

立ち上げまでの流れ

- 福岡市等による「おたがいさまコミュニティで迎える2030年プロジェクト」モデル地域に選定され、公民館で、超高齢社会のなかで多世代での交流や事業を考えるワークショップを開催した。その中で「地域で自分たちにできること」のアイデアを出し合ったところ、「カフェのような交流の場があるといい」との意見が多く挙がった。
- 平成25年度に「おためしカフェ」を2回試行開催したところ、多数の参加があった。参加者に「カフェでこんなことがあったらいいな」ということを投票してもらい、多くのアイデアが出された。そのアイデアや意見をもとに26年度から本格的に開始した。

カフェの内容・特徴

- 「カフェであつたらいいな」で出されたアイデアをもとに、障がい者生活・就労支援施設「つくし学園」のパン販売、地域活動支援センター「みどりのその」による野菜の販売、TSUTAYAによる中古本の交換、保健師や福岡歯科大学医科歯科総合病院による健康相談、落語、小学生の夏休み宿題相談など多数の企画を開催している。
- 乳幼児が遊べるスペースも確保されており、多世代が同じ空間で交流できる。
- 出席スタンプカードを配付し、参加の楽しみを増やす工夫をしている。
- 初めて参加する人やひとりで参加した人が、「次も参加しよう」と思えるよう、ボランティアが意識的に声かけするなど工夫している。





城南区城南校区

カフェ七隈の里

人口 14,326人
高齢化率23.1%

概 況

主 催 者	小規模多機能施設七隈の里		
会 場	小規模多機能施設七隈の里	平均参加者数	20名
開催日時	毎月第2水曜 14:00～15:00	ボランティア数	12名 (1回あたり平均10名活動)
参 加 費	100円	立ち上げ時期	平成25年10月

校区の特色

- URなどの団地では、単身高齢者が多い。
- 新興マンションもあり、小学校、中学校、高校があることから、若い世代も比較的多い。

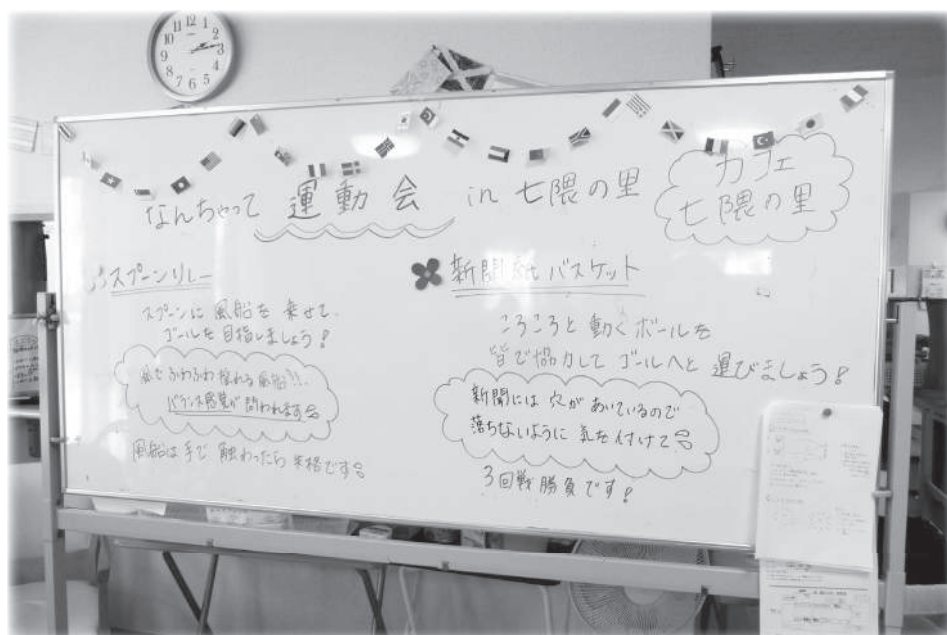
立ち上げまでの流れ

- 地域との交流を希望していた校区内の福祉施設（七隈の里）に区社協が地域カフェを提案し、開催することになった。
- 区社協と「七隈の里」で協議の上、地域ボランティアに呼びかけ、話し合いを行って立ち上げた。



カフェの内容・特徴

- 開始当初は、ボランティアも参加者として位置づけていたが、ボランティアが活動者として手伝いたいとの希望が出たことから、現在はレクリエーション補助や高齢者の話し相手などを行っている。
- ボランティアはカフェ以外の施設行事にも参加し、施設との交流を深めている。
- 地域住民の「かかりつけ」的な福祉相談の場となるよう、施設職員が随時参加者の相談を受け付けている。
- カフェ開催日に、偶然小学生が施設に立ち寄り交流したことをきっかけに、「子ども110番の家」の登録施設となった。





城南区堤地区

つつみカフェ

人口 12,126人
高齢化率25.6%

概 況

主 催 者

- ・自治協議会（健康福祉部）
- ・認知症サポーター養成講座受講者

会 場

堤公民館

平均参加者数

100名

開催日時

毎月第4週のいずれかの曜日
10:00~16:00

ボランティア数

400名
(1回あたり平均20名活動)

参 加 費

無料

立ち上げ時期

平成25年 5月

地区の特色

- ・堤地区は南北に非常に長く、城南区のなかでも一番広い面積を有している。居住形態は、マンションやアパートなどの集合住宅が少なく、戸建ての家が多い。そのため、住民の移動が少ないことから高齢化が進み、一人暮らしの高齢者も多い。

立ち上げまでの流れ

- ・校区内の認知症サポーター養成講座受講者を対象にステップアップ講座を開催し、「自分たちが地域でできること」について話し合いを重ねた結果、カフェの開催が決定した。
- ・自治会長、民生委員、地域ボランティア、公民館、校区内の福祉施設（小規模多機能施設めおといわ「ゆい」）、区役所（地域支援課、地域保健福祉課）、区社協等による準備委員会を重ね、内容や予算、広報について話し合った。

カフェの内容・特徴

- 特にプログラムは設けず、誰でも自由に出入りでき、喫茶と交流を楽しむことができる。
- 認知症の人やその家族の方々の情報交換の場も目的としている。
- ボランティアには当番などは設けず、負担なく活動できるようにしている。
- 区役所や地域の福祉施設の職員等、専門知識を持つ相談員が常駐し、随時相談に対応している。
- 受付に募金箱を設置しており、運営費に充当している。
- 公民館から遠い地域の方のために、各町の集会所等での「出前カフェ」実施も進めている。



提供メニュー

- ・ コーヒー
- ・ 紅茶
- ・ 緑茶
- ・ お菓子
- ・ 手作りのお菓子や軽食が提供されることもある。





城南区堤地区（樋井川5丁目）

ふれあい茶房

人口 校区12,126人
(町内776人)
高齢化率 校区25.6%
(町内35.1%)

概 況

主 催 者 樋井川5丁目自治会

会 場 樋井川5丁目集会所

平均参加者数 30名

開催日時 毎月第4日曜
(7・8・12月は休止)
14:00～16:00

ボランティア数 10名
(1回あたり平均10名活動)

参 加 費 100円

立ち上げ時期 平成23年 4月

町内の特色

- 昭和39年に福岡市が戸建て用として分譲した団地で、集合住宅は少ない。
- 平成26年に50周年を迎え、30歳代で入居した第一世代は80歳を超えている。現在、世代交代中であるが、高齢化率は35%と高く、また高齢者の一人暮らし世帯が多い。

立ち上げまでの流れ

- 高齢者が多い町民が安全で安心な生活を送るためには、世代を超えて参加できる交流の場が必要であるとの意見が自治会で多く出た。試験的に「クリスマス会」や「新春ぜんざい会」を開催したところ、多くの参加者があり大変好評であったため、気軽に参加できるカフェの開設が決まりスタートすることになった。
- 準備段階で、町内に在住する名曲喫茶の元経営者からの手伝いの申し出や、町内の方が収集していた高級なコーヒーカップ50客を寄贈の申し出があるなど、スムーズにスタートすることができた。
- 組織としては、自治会有志のほか、民生委員も参加して、ふれあいネットワークとしても機能するようにし、10名程度のスタッフが揃った。

カフェの内容・特徴

- 町内在住の人生の先輩のお話や余興の披露による交流。後半は、全員で唱歌を合唱する。
- コーヒーは毎回2～3種類を準備し、徹底して味にこだわっている。
- 季節の花や雛人形、武者人形、山笠人形を飾り、会場を盛り上げている。
- スタッフはふれあいネットワークの委員を兼務している。
- スタッフも参加者と一体となって楽しんでいる。



提供メニュー

・ コーヒー

・ お菓子





城南区長尾校区

ふれあいカフェながお

人口 13,082人
高齢化率21.3%

概 況

主 催 者	株式会社ケアワーク九州		
会 場	セフィーロデイサービス センター長尾	平均参加者数	20名～25名
開催日時	毎月第3日曜 10:00～12:00	ボランティア数	18名 (1回あたり平均8名活動)
参 加 費	無料	立ち上げ時期	平成27年1月

校区の特色

- 福岡市の中心あたりに位置し、交通の便がよいので一般住宅、団地、マンションも多い。
- 樋井川が校区内の南北に流れており、川辺は住宅地になっている。
- 校区住民の交流事業としてレクリエーション活動が盛んに行われている。

立ち上げまでの流れ

- 区社協から校区内の「セフィーロデイサービスセンター長尾（以下、セフィーロ）」に地域カフェの開催を提案したところ、企業の社会貢献活動の一つとして、賛同を得た。
- 区社協の仲介で校区社協とセフィーロの顔合わせを行い、意見交換を踏まえてセフィーロが開設の準備を進めた。
- 区社協が校区自治協や地区民児協への広報を支援した。

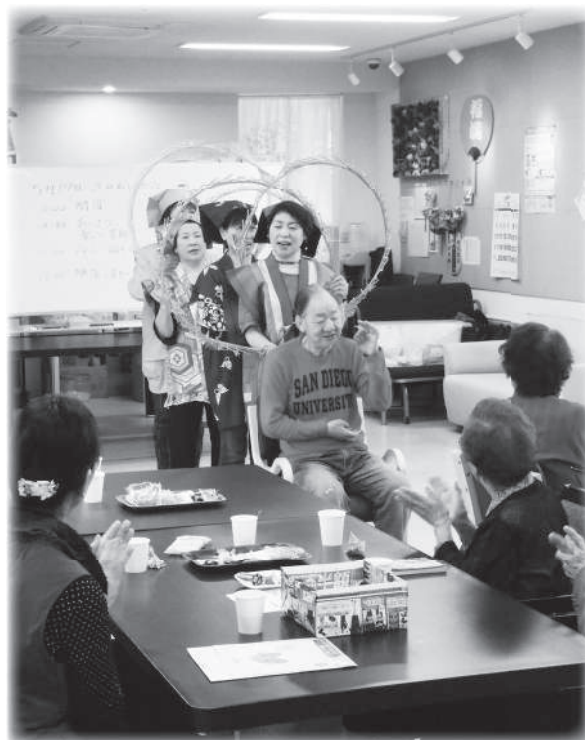
カフェの内容・特徴

- 喫茶とおしゃべりのほか、30分～60分程度ボランティアによる演芸披露や施設職員による体操等がある。
- 毎月、季節にちなんだお菓子や軽食（恵方巻き、柏餅、流しそうめん等）をセフィーロから提供している。
- セフィーロ職員による介護相談窓口も設置している。
- ボランティアスタッフとして、セフィーロを運営する法人「ケアワーク九州」の職員有志が勤務先を問わず集っている。



提供メニュー

- ・ コーヒー
- ・ 紅茶
- ・ 緑茶
- ・ お菓子
- ・ 軽食





城南区七隈校区(菊池ヶ丘自治会)

きくちカフェ

人口 校区13,204人
(町内460人)
高齢化率 校区23.2%
(町内28.9%)

概 況

主 催 者 ひまわりの会

会 場 老人いこいの家

開催日時 年6回程度 第2日曜
12:00~16:00

参 加 費 500円

平均参加者数 40名

ボランティア数 30名
(1回あたり平均15名活動)

立ち上げ時期 平成24年 4月

町内の特色

- マンションが1件と戸建て住宅が並ぶ町内である。
- 学生アパートも多い
- 昔から住んでいる住民が多く、地域の結束力は高い



立ち上げまでの流れ

- 認知症予防を目的に、民生委員が「町内の高齢者数名が集まり、みんなで一緒に食事を作って食べる場があるといい」と考えたのがきっかけとなった。
- 町内で話し合い、町内の「菊池女性の会」やママさんバレーボールを主体とする「ひまわりの会」の主催で、町内全員に呼びかけて子どもからお年寄りまで参加できる場としてカフェを始めることになった。



カフェの内容・特徴

- 子どもから高齢者まで幅広い世代が参加し、一緒に昼食をとる。
- 高齢者の安否確認の場にもなっている。
- 町内にある福祉施設入所者も、一住民として参加している。
- 公的な補助金を活用せず、参加費、バザー等の収益金等の自主財源で運営している。
- 町内の廃品回収の日にあわせて実施している。
- ボランティアには、ソフトボールチームやふれあいネットワークの活動者等も加わっている。



提供メニュー

- ・ 手作りの昼食
(手打ちそば、
そうめん流し
など)
- ・ 喫茶





城南区七隈校区

七隈カフェ

人口 13,204人
高齢化率23.2%

概 況

主 催 者	グループホームたのしい家七隈		
会 場	グループホーム たのしい家七隈	平均参加者数	40名
開催日時	奇数月…第3火曜 偶数月 …第3日曜 14:30~15:30	ボランティア数	6名 (1回あたり平均4~6名活動)
参 加 費	無料	立ち上げ時期	平成25年9月

校区の特色

- 福岡大学や福岡大学病院など、大規模な施設があり、学生が多く居住している。また校区内に大きな公園もあり、住民の憩いの場がある。
- 区の平均より高齢化率が高い。
- 戸建住宅が比較的多い。

立ち上げまでの流れ

- 校区内のある高齢者がグループホームたのしい家七隈へ入所することになったが、「今まで通っていた公民館や老人いこいの家など、本人と地域のつながりを、入所することで断ち切ってしまうことになるのではないか」という福祉施設職員の思いがきっかけだった。
- 利用者の入所をきっかけに、施設職員が地域の行事に参加することで地域との交流を続けていたが、その後、施設として地域のために何ができるかを考えた結果、地域の人が気軽に立ち寄れるカフェを思いつき、地域に開かれた施設を目指して開設した。
- 七隈校区は認知症への関心が高く、講演会などが多く行われていたことも、施設が入所者と地域住民との交流を思いついたことの一因であった。

カフェの内容・特徴

- 入所者とその家族と地域住民が交流する場となっている。
- 入所者との交流を通じて、認知症の理解の促進を図る目的もある。
- 入所者の手作りお菓子が好評。
- 傾聴ボランティアが加わることで、利用者の話し相手にもなっている。
- 校区の小学校やサークルなどを招待して、演芸などが披露されている（地域住民の出演なら、自然に地域住民が見に来ると考え、積極的に取り入れている）。
- 区内のグループホームや地域関係者等には、毎回案内文を送付しPRに努めている。



提供メニュー

- ・ コーヒー
- ・ 紅茶
- ・ 緑茶
- ・ 利用者をつくったお菓子





城南区南片江校区

ふれあいカフェ

人口 9,068人
高齢化率22.5%

概 況

主 催 者	介護付き有料老人ホーム生活倶楽部ウイズ南片江		
会 場	介護付き有料老人ホーム 生活倶楽部ウイズ南片江	平均参加者数	12名
開催日時	毎月第3木曜 14:00～15:00	ボランティア数	6名（施設職員含む） （1回あたり平均4名活動）
参 加 費	100円	立ち上げ時期	平成26年12月

校区の特色

- 油山のふもとに位置する自然豊かな住宅街を中心とする校区。
- 戸建が多く、長く住む高齢者も多いが、山側の地域では宅地開発が進んでおり若い世帯の転入も多い。
- ワンルームの集合住宅も多く福岡大学生が多く居住している。

立ち上げまでの流れ

- 校区で開催した高齢者地域支援会議（区役所が推進する、高齢者を地域で支えるための住民による話し合い）の中で、住民から「交流の場がほしい」という意見が多く挙がった。同時期に、区社協職員が校区内の福祉施設（ウイズ南片江）施設長と、施設の地域貢献について話す中で、施設側からカフェ開設の相談があった。
- 区社協が仲介して自治会・校区社協・民生委員とウイズ南片江との意見交換会を行い、地域住民の意向を反映する形でウイズ南片江が準備を進めた。

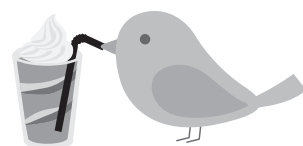
カフェの内容・特徴

- 喫茶とおしゃべりが中心だが、施設入所者や地域住民による演芸が披露されることもある。
- ウイズ南片江職員によるミニ介護予防講座や認知症予防講座を実施している。
- ウイズ南片江職員による介護相談も随時受け付けている。
- 地域住民と、もともと地域に住んでいた利用者が再会し交流できる場にもなっている。



提供メニュー

- ・ コーヒー
- ・ 紅茶
- ・ お菓子





早良区有田校区

有田なのひカフェ

人口 10,820人
高齢化率22.1%

概 況

主 催 者	有田校区まちづくり実行委員会		
会 場	有田公民館	平均参加者数	40名
開催日時	毎月7, 17, 27日 11:00～15:00	ボランティア数	9名 (1回あたり平均3～4名活動)
参 加 費	無料	立ち上げ時期	平成27年7月7日

校区の特色

- 都市化が進み、マンションや新興住宅が増える中、UR、市営住宅など昔からある住宅も混在する住宅地域で、西部は室見川河畔公園に隣接している。

立ち上げまでの流れ

- 校区まちづくり実行委員会（地域住民の連帯を深め、よりよい生活環境をつくることを目的とした団体）が満15年を迎え、まちづくりのあり方を再考した時に、地域住民が集まり、その声を吸い上げる場としてカフェ開催を考案した。
- 平成27年春から4回ほど検討委員会での協議を重ね、7月にオープンした。



カフェの内容・特徴

- 「地域住民の意見を集約する」という目的で開催している。その方法として、「ありたの木」をカフェに設置している。（木の形のボードを置き、そこにカフェに参加した方から「こんな校区になったらいいな」という様々な意見をメモに記入して貼り付けてもらう）
- 曜日にこだわらず、より多く幅広い年代層の方に来てもらえるよう、「7」のつく日に開催している。
- 上記の目的から、12月までの時限的な開催を予定していたが、参加者から継続希望の声があがったため、継続することとなった。
- コーヒーは一杯ずつ豆からひいている。
- 募金箱を設置し、運営費に充てている。





早良区飯原校区

ふれあいカフェ

人口 6,939人
高齢化率23.6%

概 況

主 催 者 飯原公民館

会 場 飯原公民館

開催日時 毎週水曜
13:30~15:30

参 加 費 無料

平均参加者数 20名

ボランティア数 10名
(1回あたり平均2名活動)

立ち上げ時期 平成26年5月

校区の特色

- 昭和55年4月に原、原西、飯倉校区から分離して飯原校区となった。校区の中心を油山川が流れ、昔水田地帯であったことから、水路が多く見られる。また、戸建て住宅が多く、閑静な住宅地である。

立ち上げまでの流れ

- 校区社協主催の「見守りダイヤル」の出前講座が、「孤立を防ぐために地域でできること」を考えるきっかけとなった。また、地域の高齢者がスーパーなどで一日中座っているのを見かけるとの声もあり、公民館として居場所づくりができないだろうかと考え始めたのがきっかけ。
- 公民館を中心に、校区社協や自治協と立ち上げに向けて協議を行なった。



カフェの内容・特徴

- ・ イベントや企画は基本的になく、喫茶とおしゃべりが中心。
- ・ 子育てサロン「いいっこランド」が開催される水曜日にカフェを開催することで、親子連れが参加しやすいよう工夫している。
- ・ 公民館だよりで広報している。





早良区小田部校区

小田部公民館オアシス

人口 9,480人
高齢化率19.0%

概 況

主 催 者	小田部公民館オアシスボランティア（グループ名は未定）		
会 場	小田部公民館	平均参加者数	35名
開催日時	毎月6回（火・木曜） 11：00～14：00	ボランティア数	16名 （1回あたり平均8名活動）
参 加 費	無料	立ち上げ時期	平成26年 6 月

校区の特色

- 古い戸建住宅街の小田部地区、築40年目となる室見団地地区、それ以降に開発された新しいマンション地区があり、それぞれでコミュニティが形成されている。
- 人口の転出、転入が多い。
- 高齢化率は年々少しずつ上昇している。

立ち上げまでの流れ

- 公民館が、地域住民の交流の場として公民館をもっと多くの人に利用してほしいという思いを持っていた。
- 公民館が新設された際の地域住民向けの内覧会で、地域住民に公民館をもっと気軽に利用してもらえるようにPRするため、公民館の呼びかけで集まったボランティアが館内で甘味処を開いたところ好評で、内覧会後も継続的に地域カフェとして続けていく事が決まった。

カフェの内容・特徴

- ・食事とおしゃべりが中心。
- ・運営主体はボランティアで、公民館は場所の提供により協力している。
ボランティアが生きがいや励みを持って活動していることが継続につながっている。
- ・公民館で火曜日は高齢者向けの教室、木曜日は乳幼児向けの教室を行われており、その曜日に合わせてカフェを開催し、教室終了後に参加者が交流できるようにしている。
- ・曜日によってカフェの利用者の年齢層が違うため、食事の内容を変えている。
- ・公民館での普段の作品展示を拡大したミニギャラリーの開設などでカフェを盛り上げることも考えている。



提供メニュー

- ・コーヒー（100円）
- ・カレー（300円）
- ・ぜんざい（100円）
- ・黒糖まんじゅう（80円）
- ・ちらしずし（吸い物付き）（250円）
- など





早良区早良校区

ロビー喫茶

人口 3,763人
高齢化率32.1%

概況

主催者 早良公民館

会場 早良公民館

開催日時 毎月28日（日曜の場合は前日）
10:00～16:00

参加費 無料

平均参加者数 15名

ボランティア数 4名（公民館スタッフ）
（1回あたり平均2名活動）

立ち上げ時期 平成27年8月

校区の特色

- 古くからの戸建が多いため、地の人が多く、高齢化率も高い。
- 公民館が校区の端に位置しているため、足腰の悪い方たちには不便である。

立ち上げまでの流れ

- 公民館の広いロビーを活用して、平成27年5月に「ロビーでお茶会」を行った。公民館事業で、地域の人が気軽に交流できるよう、平成27年8月よりロビー喫茶を立ち上げた。
- 喫茶開始の広報を公民館だよりにて実施した。
- 平成28年度より毎月28日に実施するようにした。
（日曜日と重なった場合は前日に実施）



カフェの内容・特徴

- 喫茶中心。
- 喫茶中は常に音楽を流しておきたいという思いがあり、レコードプレーヤーやレコードの寄附を受け、流している。参加者がレコードを持参する場合もある。
- 平成27年3月に、区役所地域支援課を通じ公民館ミニ図書館事業助成の申込を行い、ロビーにそろえた書籍を活用している。
- 今後、健康講座的な内容も取り入れていきたい。





早良区田村校区

かふえ もりのいえ

人口 10,132人
高齢化率18.7%

概 況

主 催 者	・ 社会福祉法人 学而会 ・ 学校法人 福岡学園		
会 場	・ サンシャインプラザ ・ 田村公民館 (交互に開催)	平均参加者数	40名
開催日時	毎月1回(日曜) 10:00~15:00	ボランティア数	14名 (1回あたり平均14名活動)
参加費	無料	立ち上げ時期	平成27年10月

校区の特色

- ・ 世帯数、人口ともに年々増加傾向にある。特に高齢化率は着実に上昇している。
- ・ 出生数・率が早良区内で一番高い。
- ・ もとは農村地帯だったが、近ごろは戸建て住宅、集合住宅が増えてきている。

立ち上げまでの流れ

※主催者である介護老人福祉施設「サンシャインプラザ」等を運営する「社会福祉法人 学而会」と「福岡歯科大学」「福岡医療短期大学」等を運営する「学校法人 福岡学園」は同系列の法人。

- ・ 「福岡学園」の学生が地域の方とふれあうことで、貴重な体験となるという思いから、学生と田村校区の地域住民で相互交流できないか？という考えと、「学而会」の地域貢献活動の一環として、地域の方との交流を深め、これまで施設が培ってきた、高齢者介護の知識や技術を地域住民に還元したいという考えから、2法人が協力してコミュニティカフェを開催することになった。
- ・ 開設に向け、福岡学園、サンシャインプラザ、校区自治協、校区社協、公民館、区社協で会合を持った後、カフェで協力していただくボランティア（学生・地域住民）を対象に法人がボランティア講座を開催した。
- ・ 10月25日の福岡学園の学園祭に合わせてスタートした。

カフェの内容・特徴

- 福岡学園、サンシャインプラザ、地域住民の三者が協力し合って運営している。運営費は社会福祉法人学而会と学校法人福岡学園が負担している。
- 福岡医療短大の学生や近隣の中学・高校生などがボランティアとして参加している。学生が地域の人とふれあえる場所としたい。
- 主催者の専門性を活かし、専門家による健康講座や歯科医療に関する講座を開催している。
- 工作を通して、地域子どもたちとの交流の場を設ける。



提供メニュー

- ・ コーヒー
- ・ 紅茶
- ・ 緑茶
- ・ ジュース
- ・ お菓子





早良区野芥校区

ばらりカフェ

人口 11,680人
高齢化率28.1%

概 況

主 催 者 野芥公民館

会 場 野芥公民館

開催日時 毎週 水曜、金曜、土曜
14:00~16:00

参 加 費 無料

平均参加者数 10名

ボランティア数 2名
(1回あたり平均1名活動)

立ち上げ時期 平成24年 9月

校区の特色

- 西油山を背にして、校区の真ん中を油山川が流れる。昔は緑が多く田園地域であったが、開発が進み戸建て住宅が多い校区である。
- 校区東側（油山側）は、山を切り開いて団地が開発されており、坂が多い。一方で、西側は平坦である。

立ち上げまでの流れ

- 「地域活動者やサークル活動者以外は公民館に立ち寄る機会がなく、立ち寄ってもあいさつ程度で終わりがち」ということに課題を感じていた公民館職員の、「公民館に用事がない人でも、気軽に来館するきっかけを作りたい」という思いがきっかけ。
- コーヒーを飲みながらゆっくりできる場を公民館で設けようと考えた。
- 校区在住の館長の友人に協力（水、金のコーヒー出し）を依頼し、公民館だよりで広報し開催を始めた。

カフェの内容・特徴

- 自治協から新聞2紙とスポーツ新聞1紙の提供がある。
- 季節の花などが飾られ、和やかな雰囲気である。
- 平成26年7月から、月1回医療カフェ「みんなの保健室」を企画し、医療機関等の関係者を招き講演と懇談を実施している。日頃気になっている事や疑問などを行政や医療機関の専門家と気軽に語り合い、学ぶ事で、地域住民の健康促進や病気予防につながっている。
- 校区社協が開催した「家族介護者のつどい」で顔見知りになった方どうしが毎月第3金曜日のカフェに集まることになり、在宅での介護について定期的な情報交換や交流が続けられている。





早良区室見校区

室見カフェ

人口 11,633人
高齢化率14.9%

概 況

主 催 者	室見校区社会福祉協議会		
会 場	室見公民館	平均参加者数	200名
開催日時	年3回予定（不定期） 10:00～15:00	ボランティア数	15名 (1回あたり平均15名活動)
参 加 費	無料	立ち上げ時期	平成27年 5 月

校区の特色

- 交通の便が良く、商業施設も充実しており生活の利便性は高い。
- 子育て世代が多く、転出入も多い。
- 一方で長年住んでいる住民も多く、高齢化率は年々上昇している。

立ち上げまでの流れ

- 区社協主催の校区社協役員研修会で、校区社協役員が城南区金山校区「カフェたまり場」の取り組みについて聞き、室見校区でも「若い世代と高齢の方がふれあえる場をつくりたい」という思いをもったことからカフェ開催の検討を始めた。
- 校区社協の役員会で話し合い、まずは地域カフェが住民に求められているのかを探るため、「カフェたまり場」を参考に平成27年5月に「おためしカフェ」を実施した。大変好評だったため、2回目のカフェを同年11月に開催した。
- 校区社協から障がい福祉サービス事業所への商品の販売依頼や、校区内のサークル・団体の出展の調整を行った。
- 広報については、チラシの組回覧や公民館・掲示板の掲示、病院・施設へのチラシの配布を行った。

カフェの内容・特徴

- おしゃべりを中心に、参加者が好きなコーナーで自由に体験や買い物を楽しめる。
- 校区環境美化リサイクル推進委員会や手芸サークルから体験コーナーや作品の販売を実施したいという要望を受け、コーナーを設けた。
- 別室で、子ども向けにボランティアによる絵本の読み聞かせを実施した。
- 周辺の障がい福祉サービス事業所等による野菜・お菓子・パンの販売コーナーもある。
- 保健師・いきいきセンターの職員による健康チェックや・福祉相談のコーナーもある。



提供メニュー

- ・ コーヒー
- ・ 緑茶
- ・ ジュース
- ・ 豚汁 (100円)
- ・ おにぎり (100円)





早良区脇山校区 す き

わきやま主基♥カフェ

人口 2,470人
高齢化率33.4%

概 況

主催者 脇山公民館

会場 脇山公民館

開催日時 毎月5と0のつく日（日曜、祭日の場合は中止）
10:00～12:00

参加費 無料

平均参加者数 10名

ボランティア数 2名（公民館スタッフ）
（1回あたり平均2名活動）

立ち上げ時期 平成27年12月

校区の特色

- ・大半を山林でおおわれた緑豊かな校区で、南区とほぼ同じ面積を持つ。
- ・市街化調整区域（市街化を抑制すべき区域）が多いため、転入が少なく、地の住民が多い。
- ・高齢の独居、夫婦世帯が多くほぼ戸建てに居住している。

立ち上げまでの流れ

- ・公民館が、「介護等問題を抱えていても相談する術を知らなかったり、知人に相談すると知れ渡ってしまうのでそれを嫌がったりする人が多いため、専門家による介護相談もできる場を提供したい」、また、「地域のコミュニケーションの機会をつくりたい」という思いから、カフェを実施したいと考えた。
- ・カフェに介護相談を取入れるため、区役所、いきいきセンター、さわら南よかところネット（早良区南部の介護保険事業所有志職員で構成される任意の団体）、区社協と協議し、机等必要な備品を準備した。また広報用のチラシやのぼり等を作成した。

カフェの内容・特徴

- 喫茶・おしゃべり中心。
- 公民館近くの公園でグラウンドゴルフを実施している日に合わせてカフェを実施している。
- 平成28年2月からは月1回さわら南よかところネット・いきいきセンター・保健師等による介護・健康相談を実施している。



提供メニュー

- ・ コーヒー
- ・ 緑茶





西区愛宕校区

かふえ・あたご

人口 12,716人
高齢化率19.5%

概 況

主 催 者 愛宕校区社会福祉協議会

会 場 愛宕公民館

平均参加者数 50名

開催日時 毎月第4木曜
13:00～16:00

ボランティア数 10名
(1回あたり平均5名活動)

参 加 費 無料

立ち上げ時期 平成27年10月

校区の特色

- 博多湾沿いの、愛宕山を有する校区。
- 愛宕山の麓に広がる一戸建て・コーポが多く単身高齢者の占める割合の高い愛宕地区、昭和40年に宅地造成された戸建てで高齢化率の高い豊浜地区、昭和60年に埋め立て開発された高層マンションの愛宕浜地区からなる。

立ち上げまでの流れ

- 単身高齢者（特に男性）の見守りが課題となっており、平成27年1月に、単身高齢者の見守りを兼ねた集いの場としてカフェを開催することを区社協が校区社協に提案した。5月、校区社協から校区自治協にカフェ開催やふれあいネットワークの取組みについて提案し、校区社協の支援内容を提示するとともに、各町での取組みを奨めた。
- 同時進行で、公民館ボランティア講座受講者と校区社協が公民館を拠点にカフェを開催する計画を進め、平成27年7・8月試行実施。10月から月1回の継続開催となった。

カフェの内容・特徴

- おしゃべりが中心。
- 公民館ボランティア登録者が活躍している。
- 校区内の高齢者通所施設の利用者、福祉系専門学校学生等の参加もある。





概 況

主 催 者	愛宕3丁目1区自治会		
会 場	ひだまり集会所	平均参加者数	13名
開催日時	毎月第2火曜 14:00～16:00	ボランティア数	5名 (1回あたり平均3名活動)
参 加 費	無料	立ち上げ時期	平成27年7月

町内の特色

- 愛宕山の裾野に広がる、一戸建て、2階建てのアパート、マンションが混在している地域。
- 高齢化率は高くないが、単身高齢者が多い。

立ち上げまでの流れ

- ふれあいネットワークは組織されておらず、町内の単身高齢者（特に男性）の見守りが課題となっていた。
- 他の町と合同のふれあいサロンはあるが、大きな道を渡らなければならないため町内からの参加者は少なかった。
- 平成27年1月に、単身高齢者の見守りを兼ねた集いの場としてカフェを開催することを区社協が校区社協に提案した。5～6月、校区社協会長から校区自治協や町内会長にカフェ開催やふれあいネットワークの取組みについて提案した。同時進行で民生委員が中心となって、自治会内でカフェ開催に向け協議を進めた。

カフェの内容・特徴

- おしゃべりが中心。
- 手作りの菓子、漬物などを持ちよっている。
- 始めにその月のお誕生日の人を紹介して祝い、終わりになつかしの歌を歌っている。





概 況

主 催 者	認知症サポーター養成講座受講者主体（28年度からは壱岐校区社会福祉協議会主体）		
会 場	壱岐公民館	平均参加者数	56名
開催日時	毎月第4月曜 10:00～15:00	ボランティア数	10名 (1回あたり平均10名活動)
参 加 費	無料	立ち上げ時期	平成27年4月

校区の特色

- 西区内で最も人口が多い校区。
- 新興住宅地、市営住宅地区、戸建が多い地区など各町内で世帯構成や生活状況が大きく異なる。

立ち上げまでの流れ

- 平成26年度に区社協・公民館・校区内の小規模多機能型施設「ローズマリー」の三者で、地域住民の認知症に対する理解を深める目的で認知症サポーター養成講座を実施した。
- 講座終了後、区社協の呼びかけで、講座受講者、地域住民（校区社協、民生委員、自治会等）、校区内の福祉施設（「ローズマリー」、障がい福祉サービス事業所「ゆい」、訪問介護さくら、介護老人保健施設サンライズ壱岐等）、公民館等で講座後の活動の展開について話し合った（月1回ペース、計4回）結果、地域住民の居場所や交流の場をつくりたいとの思いから、講座受講者を主体に、上記以外の施設も協力してカフェを開催する運びとなった。

カフェの内容・特徴

- 喫茶とおしゃべりが中心。
- お菓子は参加者が持ち寄ったり、寄付金で購入。
- 障がい福祉サービス事業所「碧園」による野菜等の移動販売を実施している（販売は公民館敷地外）。
- 子育てサロン開催日と同日に開催することで、高齢の世代だけでなく子育て世代や小さな子どもも多く参加している。
- 助成は受けず、参加者の寄付金（募金箱を設置）と地域住民の物品寄付により運営している。公民館や施設の備品も活用し、お金をかけない運営を工夫している。



提供メニュー

・ コーヒー

・ 紅茶

・ 緑茶

・ お菓子





西区壱岐南校区(野方台団地)

ひだまりカフェ野方台

人口 校区10,429人
(町内825人)
高齢化率 校区33.5%
(町内47.9%)

概 況

主 催 者 野方台団地自治会

会 場 野方台団地集会所

平均参加者数 60名

開催日時 年5回程度
13:00~16:00

ボランティア数 10名
(1回あたり平均10名活動)

参 加 費 無料

立ち上げ時期 平成27年7月

町内の特色

- ・西区南部の室見川と叶岳の間に位置する、緑豊かな公園や野方遺跡がある校区。戸建ての住宅地が広がっており、年々高齢化が進んでいる。
- ・叶岳のふもとの野方台団地近辺は坂が多く、道幅は狭い。近くにショッピングセンターがあり、西鉄バスが通っているものの、バス停から自宅までの距離と坂道で、買い物などに不便を感じている人もいる。丘陵が険しく、公民館まで歩いて行ける距離ではない。

立ち上げまでの流れ

- ・同校区で「ふら〜っとカフェ壱岐南」が毎月あっているが、町内会でもカフェをしてほしいという意見があった。
- ・自治会の協力が得られることになり、自治会、老人クラブ「叶会」とふれあいサロン「友遊」、民生委員が話し合いを重ねた。
- ・財政面は自治会が負担し、老人クラブとふれあいサロンが協力する形で開催された。

カフェの内容・特徴

- 自治会、オレンジ隊（野方台団地で結成されている、児童の登下校時の見守りをはじめ、「地域のためのお手伝いの活動」を実施する男性中心のグループ）老人クラブ、ふれあいサロンが協力して開催している。
- これまで、ダーツや輪投げなどのゲームでこどもと交流を深め、小物づくりやみそ作り、壱岐南周辺の歴史講話などの勉強会を実施した。
- ふれあいサロンや老人クラブに参加されない人がカフェには参加している。



提供メニュー

- ・ コーヒー
- ・ 緑茶
- ・ お抹茶
- ・ ジュース
- ・ お菓子





西区壱岐南校区

ふら~っとカフェ壱岐南

人口 10,429人
高齢化率33.5%

概 況

主 催 者	ふら~っとカフェ実行委員会		
会 場	壱岐南公民館／ 特別養護老人ホームマナハウス／ サービス付き高齢者向け 住宅かりん 等	平均参加者数	100名
開催日時	毎月第1日曜 10:00～15:00	ボランティア数	50名 (1回あたり平均50名活動)
参 加 費	無料	立ち上げ時期	平成27年2月

校区の特色

- ・西区南部の室見川と叶岳の間に位置する、緑豊かな公園や野方遺跡がある校区。戸建ての住宅地が広がっており、年々高齢化が進んでいる。
- ・叶岳のふもとの野方台団地近辺は坂が多く、道幅は狭い。近くにショッピングセンターがあり、西鉄バスが通っているものの、バス停から自宅までの距離と坂道で、買い物などに不便を感じている人もいる。

立ち上げまでの流れ

- ・地域住民と校区内の医療介護事業所、壱岐野方商店連合会、自治協議会や民生委員、校区社会福祉協議会等で「地域ケア連絡会」を結成し、毎月高齢者支援に関する勉強会や、福岡市NPO・ボランティア交流センター「あすみん」の「超高齢社会を考える」意見交換会に参加したり、孤独死を防ぐために、孤立しがちな人にどのように地域の中へ出て来てもらうかを話し合う中で、「地域の中で、いつでも気軽に立ち寄れる開かれた場所」が必要だと意識共有したことがきっかけとなる。
- ・「地域ケア連絡会」メンバーとカフェ立ち上げに賛同する有志とでカフェ実行委員会を結成し、毎月会議を行って協議を進めた。

カフェの内容・特徴

- カフェに賛同するメンバーで実行委員会を結成し、協力して運営している。課題があれば随時話し合って改善している。
- 運営費は募金と、校区内の医療介護事業所の協力（カフェのチラシの広告掲載料）で運営している。
- 移動型カフェで、毎月開催場所が変わる。
- 希望者には医療介護事業所の協力で送迎を行う。
- 商店連合会の協力で、食事の提供や買い物支援として野菜の販売などを実施している。
- 医療介護事業所による健康チェックとアドバイス、盲養護老人ホーム「松月園」の入所者によるマッサージなどを実施している。
- 地域住民による芸能披露や医療介護事業所等による講座が行われている。
- 子どもがカフェの手伝いをし、世代間交流の場にもなっている。
- 家族を介護している人が中心となり、悩みやストレスを抱え込まないためのおしゃべり会を実施している。



提供メニュー

- ・ コーヒー
- ・ 緑茶
- ・ お菓子
- ・ お抹茶（お菓子付き）（100円）
- ・ 食事：実費（400円程度）





西区城原校区

寄台いカフェ“げんき屋”

人口 7,845人
高齢化率24.2%

概 況

主 催 者 城原校区自治協議会

会 場 城原公民館

平均参加者数 初回は120名

開催日時 年2～3回

ボランティア数 40名
(1回あたり平均40名活動)

参 加 費 無料

立ち上げ時期 平成27年11月

校区の特色

- 古くからの住宅街に、アパートやマンションが点在している。団地だけで構成される町内が2町ある。
- 校区高齢化率は西区の平均（21.0%）を上回っている。
- 平成26年度から西区役所が進める高齢者地域支援事業において、交流の場づくりを中心とした高齢者支援に取り組んでいる。

立ち上げまでの流れ

- 高齢者地域支援事業のワークショップにおいて、「交流の場があると良い」との意見が多数出されたため、校区事業として公民館での地域カフェ開催に取り組むことになった。
- 高齢者地域支援事業において、校区住民が高齢者支援に取り組みやすい環境を提供することを目的に、高齢者地域支援委員会を自治協議会の組織として立ち上げた。委員全員で城南区金山校区の「カフェたまり場」を見学した他、西区壱岐南校区の「ふら〜っとカフェ」等も参考にして、月1回委員会を開催し企画検討を進めた。

カフェの内容・特徴

- 他校区のカフェ事例を参考として、障がい福祉サービス事業所「いきいき工房」によるパン販売や地域活動支援センター「みどりのその」の野菜販売、乳幼児コーナー（読み聞かせ等あり）を実施している。
- お茶出し、昼食提供、来場者の話し相手には、アクティブシニアクラブ（老人クラブ）、男女共、校区社協などの協力を得る。校区内の福祉事業所へも来場者の相談相手として協力を依頼している。

提供メニュー

- ・ コーヒー
- ・ 紅茶
- ・ 緑茶
- ・ お菓子
- ・ 軽食（おにぎりと豚汁）（200円）



地域カフェを始めたい時は
どうすればいい？



地域カフェ立ち上げ時の主な検討事項

「住民が気軽に集まれる場所をつくりたい」、「地域カフェを始めたい」と思ったとき、どのようなことを検討・準備すればよいのでしょうか。ここでは、地域カフェを立ち上げる際の主な検討事項を紹介します。また、福岡市内の地域カフェ（本事例集に掲載しているカフェ）の状況についても併せて紹介しています。

※どの方法を選択するのが正しい、正しくない、というものではありません。校区や地区、メンバー等によっても状況が異なるため、みなさんの地域にとってよりよい場にするにはどうしたらよいか、知恵と工夫を寄せ合いましょう。

開催の目的は？

まずは、何のために地域カフェを開催するのかを話し合い、合意を形成しましょう。カフェの持つ機能・効果（P 2 参照）も参考にしながら、**カフェを開催することでどんなことを実現・達成したいのか**を話し合いましょう。開催の目的は、活動を開始した後に悩み・課題が出てきた時にも「立ち返るべき原点」になります。

開催場所・会場は？

場所（例）	メリット・長所	デメリット・短所
公民館	・一定のスペースや設備、備品等を確保しやすい。 ・比較的住民に場所がわかりやすい。	・公民館へ入ることを躊躇する人や入りにくいと感じる人もいる。
町単位の集会所	・身近な場所にあり、町内の住民や高齢者が参加しやすい。	・住民が場所を知らない場合もある。特に校区全体など広い範囲の住民を対象とした開催には不向き。
福祉施設	・カフェの担い手として施設職員の協力を得やすい。 ・施設と地域（住民）がつながるきっかけになり、カフェ以外にも連携や交流の可能性が広がる。	・施設へ入ることを躊躇する人や入りにくいと感じる人もいる。 ・施設から営利目的での勧誘があるのではないかと警戒する人や、特定の施設との関わりを持つことを快く思わない人もいる。
企業、商店など	・カフェに参加するという目的がない住民も立ち寄りやすい。 ・比較的住民に場所がわかりやすい。	・企業や商店の理解が必要。（使用料などが必要な場合もある） ・企業や商店から商品の売り込みや営利目的での勧誘があるのではないかと警戒する人もいる。

《その他》

- ・同じ校区の中で、複数箇所で開催している例や、開催場所を毎回変えている例もある。
- ・公園、グラウンド、駐車場など屋外のスペースを活用する例もある。（ただし、気候や天気の影響を受けやすいという難点がある。）

《参考》福岡市内の地域カフェの会場

- ・「公民館」を使用しているカフェ 33
〔共同利用会館(1カ所)を含む〕
- ・「福祉施設等」を使用しているカフェ 17
〔病院(1カ所)を含む〕
- ・「集会所」を使用しているカフェ 15
〔公民館併設でない老人いこいの家(2カ所)を含む〕
- ・「企業・商店」を使用しているカフェ 1

※複数箇所開催のカフェの場合、それぞれの開催場所をカウントしている。

内容・プログラムは？

地域カフェは、参加者が自由に時間を過ごせる場として実施していることもあり、本事例集掲載の地域カフェで、**約半数がプログラムを特に設けず実施しています**。一方で、イベントを行ったり、コーナーを設けたりすることで、人を呼び込み、参加者に楽しんでもらう工夫をしている例もあります。

★地域カフェで実施されているイベントやコーナーの例★

演芸披露（音楽演奏、落語など）／ミニ講座・講話／体操／レクリエーション
脳トレ／一緒に歌を歌う／小物づくり／お菓子づくり／ダーツ
読書・新聞コーナー／物品販売（パン、野菜、お菓子、手作り品など）
フリーマーケット／中古本の交換／相談コーナー（福祉、介護、医療など）
健康チェック（血圧測定、認知症判定など）／キッズスペース／授乳コーナー
家族介護者の交流会／広報・啓発・情報コーナー／そうめん流し
ファッションショー など

※全員参加型のプログラムを実施する場合は、人と一緒に何かをすることを好まない人や、ただおしゃべりや交流をしたい人などにとっては、参加を阻む要因になってしまう可能性もあります。「誰でも気軽に参加できる」「自由に過ごせる」というカフェの特徴や雰囲気を大切にしながらプログラムを検討すると良いでしょう。

開催時間は？

時間（例）	メリット・長所	デメリット・短所
2～3時間程度 （午前か午後）	・ボランティアの負担が比較的少ない。	・その時間帯では参加しにくい住民がいる可能性がある。
4～6時間程度 （午前と午後）	・都合に合わせて参加する時間帯を選べる。 ・長く過ごすこともでき、交流が深まりやすい。	・ボランティアの負担が大きくなる。

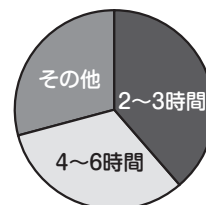
《その他》

- ・長時間の開催の場合、ボランティアが途中で交替する例もある。
- ・時間の長さだけでなく、開催する曜日の設定についても、こういった層の住民に参加してほしいのかを踏まえた検討が必要。

《参考》福岡市内の地域カフェの開催時間と開催曜日

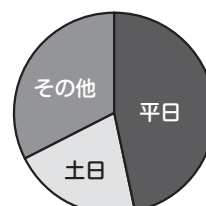
- ・2～3時間⇒38.7%
- ・4～6時間⇒32.3%
- ・その他⇒29.0%

※その他⇒「2時間未満」、「日によって開催時間を変えている」など



- ・平日開催⇒46.8%
- ・土日開催⇒21.0%
- ・その他⇒32.3%

※その他⇒「不定期」、「曜日に関わらず〇〇日に開催」など

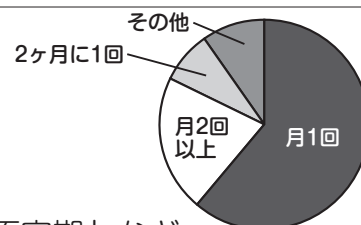


開催頻度は？

開催頻度については、無理なく続けられる頻度を検討しましょう。ただし、開催する前から頻度を決めることが難しい場合もあるため、まずは「おためしカフェ」という形で試行的に実施し、その後に開催頻度を検討・決定したという例も多くあります。

《参考》福岡市内の地域カフェの開催頻度

- | | | |
|---------|-------|----------------------|
| ・月1回 | 61.3% | } 月1回以上の開催 82.3% |
| ・月2回以上 | 21.0% | |
| ・2ヶ月に1回 | 8.0% | |
| ・その他 | 9.7% | ※その他⇒「年2、3回」、「不定期」など |



参加費や飲み物などの料金は？

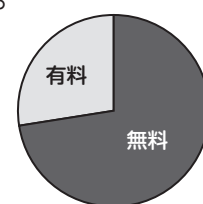
料金（例）	メリット・長所	デメリット・短所
無料	・参加者に負担がないため参加しやすい。	・活動側（運営）に負担がかかる。 ・料金の負担がある方が参加しやすいと感じる人もいる。
100～200円 （参加費や飲物代）	・参加者の負担が少ない。 ・運営費（飲み物や茶菓子の購入等）に充てることができる。	・料金がかかるために参加しない人もいる。
500円程度 （参加費や昼食代）	・参加者へ提供できるメニューや活動の幅が広がる。	・料金がかかるために参加しない人もいる。
募金箱の設置 （自由意思、寄付）	・各参加者の意思や希望を尊重できる。 ・運営費の負担を軽減できる。	・金額を設定(固定)した方が利用しやすいという人もいる。

《その他》

- ・有料の場合も、参加費として徴収する形、飲み物代として徴収する形、飲み物以外のメニューやプログラムの実費を徴収する形など、様々なパターンがある。
- ・メニューは、コーヒー、お茶、紅茶を提供しているところが多く、茶菓子を提供しているところも多い。ジュースや他の飲み物、軽食やパン等を提供（販売）している例もある。
- ・手作りの飲食物を不特定多数の参加者へ提供する場合は、バザーや夏祭りでの出店等と同様に、原則保健所へ届出が毎回必要（コーヒー、お茶等の飲み物は届出不要）。
- ・飲み物をセルフ方式にしてスタッフの負担軽減になっている例もある。

《参考》福岡市内の地域カフェの参加費・飲み物代

- ・72.6%のカフェが無料で実施（「募金箱の設置」等を含む）
- ・有料(27.4%)のうち、約8割が100円以下の金額設定。



開催するのに必要な物品は？

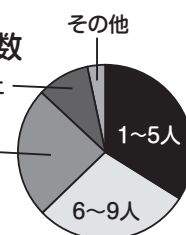
カフェの内容やメニューによって、必要な物品は異なりますが、**飲み物や茶菓子、コップ、ポット、コーヒーメーカー、ゴミ袋**などがあれば、地域カフェは始められます。（その他、各テーブル用に**ゴミ入れ、ティッシュペーパー**などがあると便利。）

また、物品を準備する際も、地域団体で所有している備品を活用したり、ボランティアや参加者で持ち寄ったり、住民から寄付や貸与を募るなど、購入をせずにお金をかけない工夫をしている例もあります。

その他の検討項目と実際の例

※立上げ後の検討事項も含む

検討項目	実際の例など																
◆カフェの名称	・ 地域名や開催場所名をつける。 例：老司カフェ、つつみカフェ、カフェ七隈の里 など ・ 地域名をなぞらえた名称をつける。 例：よこの手カフェ(横手)、喫茶サン・タック(三宅) など ・ カフェの雰囲気をイメージさせる言葉をつかう。 例：ほっとカフェ、ひだまり、カフェたまり場 など																
◆実施主体・主催者	・ 一つの地域団体や福祉施設が主催している例が多いが、実際の運営・実施には他団体や住民有志や施設職員等が協力している例も多い。また、複数の団体等での共催という形をとっている例もある。 《参考》福岡市内の地域カフェの実施主体 <table><tr><td>・ 公民館</td><td>14</td></tr><tr><td>・ 校区社協</td><td>12</td></tr><tr><td>・ 住民有志</td><td>14</td></tr><tr><td colspan="2">〔ボランティアグループを含む〕</td></tr><tr><td>・ 施設・病院</td><td>8</td></tr><tr><td>・ 町内会・自治会</td><td>8</td></tr><tr><td>・ 自治協</td><td>6</td></tr><tr><td>・ その他</td><td>9</td></tr></table> ※複数の団体等で共催している場合、各団体をそれぞれカウントしている。 ※その他⇒老人クラブ、ふれあいネットワーク班、NPO、学校法人、施設入所者の家族 など	・ 公民館	14	・ 校区社協	12	・ 住民有志	14	〔ボランティアグループを含む〕		・ 施設・病院	8	・ 町内会・自治会	8	・ 自治協	6	・ その他	9
・ 公民館	14																
・ 校区社協	12																
・ 住民有志	14																
〔ボランティアグループを含む〕																	
・ 施設・病院	8																
・ 町内会・自治会	8																
・ 自治協	6																
・ その他	9																
◆スタッフ確保の方法 (ボランティア募集)	・ 各種団体や公民館サークルなどに協力を呼びかける。 ・ 福祉施設や事業所の職員に協力を呼びかける。 ・ (立上げ後) カフェの参加者から協力者を募る。 ・ チラシやポスターなどで募集する。 《参考》福岡市内の地域カフェの1回あたりのスタッフ数 <table><tr><td>1～ 5人⇒33.9%</td><td>6～9人⇒29.0%</td></tr><tr><td>10～15人⇒24.2%</td><td>15人以上⇒ 9.7%</td></tr><tr><td colspan="2">そ の 他⇒ 3.2%</td></tr></table> ※その他⇒明確なボランティアを決めていない(垣根がない)など	1～ 5人⇒33.9%	6～9人⇒29.0%	10～15人⇒24.2%	15人以上⇒ 9.7%	そ の 他⇒ 3.2%											
1～ 5人⇒33.9%	6～9人⇒29.0%																
10～15人⇒24.2%	15人以上⇒ 9.7%																
そ の 他⇒ 3.2%																	



◆運営費の確保	・主催する団体の予算から支出する。 ・参加者から参加費や飲物代を受け取る（もしくは募金箱）。 ・地域の施設・事業所・企業などに協賛してもらう。 ・必要な飲食物や物品は、持ち寄りや寄付で確保する。
◆参加呼びかけの方法 (参加者を増やす工夫)	・チラシを全戸配布や回覧して周知する（公民館だよりの掲載等）。 ・住民が集まる地域行事や会議の際にPRを行う。 例：若い世代の参加を増やしたい⇒子育てサロン、青育連会議 ・開催当日に住民が多く集まる場所でチラシを配布する。 ・他の地域行事と同じ日に開催する。例：歩こう会、廃品回収
◆より多くの住民が参加したくなる場づくり (参加しやすい工夫)	・授乳コーナーやキッズスペースを設置する（親子連れの参加）。 ・会場までの送迎を行う。（施設・事業所・企業等の協力など） ・会場に音楽を流し、リラックスした雰囲気をつくる。 ・スタンプカードを配布し、参加する楽しみを増やす。 ・意見箱やアンケートで参加者の声を集め、運営に生かす。
◆保険の加入 (リスクの管理)	・一定の条件を満たす市民活動団体であれば、事前の手続き・登録不要で福岡市市民活動保険が利用できるため、特に保険に加入していないカフェも多い。（事故発生後に申請が必要。） ⇒ただしカフェに参加する往復途上の賠償責任補償や、食中毒の傷害補償など、対象外の内容がある。また、施設等が主催の場合は市民活動保険は利用できない。 ・その他、ボランティア活動保険やボランティア行事用保険、民間の保険などもある。（保険料支払いや事前手続きが必要。） ※各保険により加入対象や補償内容が異なるため、思わぬ事故等に備え、事前に各保険の内容を確認しておくことが望ましい。市民活動保険については各区役所地域支援課が窓口、ボランティア保険については各区社会福祉協議会が窓口。（最終頁に連絡先記載）



トピック～よくある質問～

Q. 「地域カフェ」と「ふれあいサロン」って何が違うの？

⇒A. 明確な基準があるわけではありませんが、主に下記のような特徴があります。(地域カフェの特徴についてはP 2「地域カフェとは…」にも詳しく記載しています)

	地域カフェ	ふれあいサロン
参加対象	・誰でも（年齢や対象の制限がない）	・高齢者や障がい者（閉じこもりがちな方、虚弱な方など）
主な目的・機能	・気軽な住民同士の交流 ・世代の枠を越えた交流 ・様々な人の身近な居場所	・閉じこもり防止、孤立防止 ・介護予防 ・見守り、安否確認
参加者の過ごし方	・出入りが自由で、好きな時に来て好きな時に帰れる（各参加者が好きなように過ごす） ・全員参加型のプログラムはない場合が多い	・最初から最後まで参加者が一緒に過ごす形が多い ・全員参加型のプログラムがある場合が多い（例：レクリエーション、体操、小物づくり など）
実施主体	・公民館、自治協、校区社協、福祉施設、地域住民のボランティアなど、主体が多様	・地域住民のボランティア ※校区社協の事業
共通している部分	・知り合いや仲間ができ、人と人との「つながり」が生まれる。 ・ボランティアも含め、生きがいづくりや健康づくりにつながる。 ・困りごとや相談が寄せられたり、情報交換の場になる。	

※あくまで代表的な特徴を整理したものであり、実際にはそれぞれの地域カフェ・ふれあいサロンにより多種多様なあり方があるため、必ずしもこの表のとおりには整理できるとは限りません。

※「地域カフェ」も「ふれあいサロン」も、地域の「居場所」の一つの形態であり、地域の中で「たまり場」「居場所」になっているところを総称して、「コミュニティカフェ」と呼ぶこともあります。

それぞれの地域のまちづくりや地域福祉推進の拠り所となる「居場所」づくりが求められています。

各区社会福祉協議会連絡先一覧

「地域カフェを始めてみたい」、「地域で気軽な交流の場を開催したい」、「この事例集の掲載内容についてくわしく聞きたい」…など、関心のある方は各区社会福祉協議会へお気軽にご相談ください。

区	住所・連絡先
東区社会福祉協議会	〒 812-0054 福岡市東区馬出 5-40-11 箱崎前田 6 ビル 3 階 電話 :092-643-8922 / FAX:092-643-8923
博多区社会福祉協議会	〒 812-8514 福岡市博多区博多駅前 2-19-24 博多区保健福祉センター 3 階 電話 :092-436-3651 / FAX:092-436-3652
中央区社会福祉協議会	〒 810-8622 福岡市中央区大名 2-5-31 中央区役所 1 階 電話 :092-737-6280 / FAX:092-737-6285
南区社会福祉協議会	〒 815-8501 福岡市南区塩原 3-25-1 南区役所別館 電話 :092-554-1039 / FAX:092-557-4068
城南区社会福祉協議会	〒 814-0103 福岡市城南区鳥飼 5-2-25 城南保健所 1 階 電話 :092-832-6427 / FAX:092-832-6428
早良区社会福祉協議会	〒 814-0006 福岡市早良区百道 1-1-1 UMIBE B.L.D.1 階 電話 :092-832-7383 / FAX:092-832-7382
西区社会福祉協議会	〒 819-0005 福岡市西区内浜 1-7-1 北山興産ビル 1 階 電話 :092-895-3110 / FAX:092-895-3109



福岡市の地域カフェ事例集

～つどおう・はなそう・つながろう～

発行 平成28年3月

編集 社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会
〒810-0062
福岡市中央区荒戸3-3-39 福岡市市民福祉プラザ内
TEL : 092-720-5356
FAX : 092-751-1524